注３ **大学番号：２８６**

認可

［平成２９年度設置］

計画の区分： 学部の学科の設置

注１

福岡看護大学　看護学部　看護学科

注２

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人福岡学園

令和元年５月１日現在

作成担当者

担当部局（課）名　学生・入試課

課長・氏名　楢崎進也（ナラザキシンヤ）

電話番号　０９２-８０１-０４８６

（夜間）　０９２-８０１-０４１１

ＦＡＸ　０９２-８０１-０４１２

ｅ－mail　kkyoumu@college.fdcnet.ac.jp

（注）１　「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

２　大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院　・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し，その下欄に（　　）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例）　〇〇大学　△△学部　□□学科

（旧名称：◇◇学科（平成◇◇年度より学科名称変更））

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例）

・大学の設置の場合：「〇〇大学」

・学部の設置の場合：「〇〇大学　△△学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学　△△学部　□□学科」

・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学　△△学科」

・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」

・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院　〇〇研究科」

・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院　〇〇研究科　〇〇専攻（修士課程）」

・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学　△△学部　□□学科（通信教育課程）」

３　大学番号の欄については、平成３１年４月２日付事務連絡「履行状況報告書の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

看護学部

＜看護学科＞　　ページ

１．調査対象大学等の概要等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
２．授業科目の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５
３．施設・設備の整備状況、経費　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１
４．既設大学等の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１２
５．教員組織の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１３
６．附帯事項等に対する履行状況等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２４
７．その他全般的事項　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２６

1　調査対象大学等の概要等

（1）設　置　者

学校法人福岡学園

（2）大　学　名

福岡看護大学

（3）調査対象大学等の位置

〒８１４－０１９３
福岡県福岡市早良区田村二丁目１５番１号

（注）・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を（　）書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

（4）管理運営組織

職　　名	設　　置　　時	変　更　状　況	備　　考
理 事 長	（スイ　タ　サチ　ヨ） 水　田　祥　代 （平成27年3月）		
学　　長	（クボ　タ　ケイ　コ） 窪　田　惠　子 （平成29年4月）		
学 部 長	（イイ　ノ　ヒデ　チカ） 飯　野　英　親 （平成29年4月）		
学科長等			

（注）・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を（　）書きで記入してください。
（例）平成３０年度に報告済の内容　→（30）
令和元年度に報告する内容　→（元）
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に，「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

（５）　調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

（注）・　当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
・　なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
・　様式は、平成２７年度開設の４年制の学科の完成年度を超えて報告する場合（令和元年度までの５年間）ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が４年以下の場合には欄を削除し、５年以上の場合には、欄を設けてください。）
・　留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
・　短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

（５）－①　調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備　考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
看護学部 看護学科 学士（看護学）	保健衛生学関係 （看護学関係）	年 4	人 100	年次 人 0	人 400	

（注）・　定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（　）書きで記入してください。
・　基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
・　学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
・　「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第２号（その２の１））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

（５）－②　調査対象学部等の入学者の状況

区分＼対象年度	平成２７年度		平成２８年度		平成２９年度		平成３０年度		令和元年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備　考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
Ａ　入学定員	人 (　) [　]	人 [　]	人 (　) [　]	人 [　]	人 100 (－) [0]	人 [0]	人 100 (－) [0]	人 [0]	人 100 (－) [0]	人 [0]	1.13倍	－	
志願者数	(　) [　]	(　) [　]	(　) [　]	(　) [　]	424 (－) [0]	(　) [　]	395 (－) [0]	(　) [　]	426 (－) [0]	(　) [　]			
受験者数	(　) [　]	(　) [　]	(　) [　]	(　) [　]	410 (－) [0]	(　) [　]	385 (－) [0]	(　) [　]	418 (－) [0]	(　) [　]			
合格者数	(　) [　]	(　) [　]	(　) [　]	(　) [　]	247 (－) [0]	(　) [　]	219 (－) [0]	(　) [　]	226 (－) [0]	(　) [　]			
Ｂ　入学者数	(　) [　]	(　) [　]	(　) [　]	(　) [　]	119 (－) [0]	(　) [　]	113 (－) [0]	(　) [　]	109 (－) [0]	(　) [　]			
入学定員超過率 Ｂ／Ａ					1.19		1.13		1.09				

（注）・　報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
・　（　）内には、編入学の状況について**外数で**記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、((　))書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。 該当がない年度には「－」を記入してください。
・　転入学生は記入しないでください。
・　[　　]内には、留学生の状況について**内数で**記入してください。該当がない年には「－」を記入してください。
・　学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「－」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
・　「入学定員超過率」については、**各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出**してください。なお、計算の際は小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで記入してください。
・　「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
・「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「－」を記入してください。

（５）－③　調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 / 学年	平成２７年度		平成２８年度		平成２９年度		平成３０年度		令和元年度		備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
１年次	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	119 [0] (－)	－ [－] (－)	113 [0] (－)	－ [－] (－)	110 [0] (1)	－ [－] (－)	※令和元年度１年次留年者は平成30年度１年次休学者の復学による。
２年次			[ ] ( )	[ ] ( )	－ [－] (－)	－ [－] (－)	117 [0] (－)	－ [－] (－)	115 [0] (4)	－ [－] (－)	
３年次					－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	108 [0] (－)	－ [－] (－)	
４年次							－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	
計	[ ] ( )		[ ] ( )		119 [0] (－)		230 [0] (－)		333 [0] (5)		

（注）・　報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
・　[　　]内には、留学生の状況について**内数で**記入してください。該当がない年度には「－」を記入してください。
・（　）内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「－」を記入してください。
・　編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
・　学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「－」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
・　「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

（５）－④　調査対象学部等の退学者等の状況

区分 / 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳 入学した年度	退学者数	うち留学生数	主な退学理由（留学生の理由は[ ]書き）
平成27年度	人	人	平成27年度	人	人	
平成28年度	人	人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
平成29年度	119 人	2 人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	2 人	0 人	学生個人の心身に関する事情(1人)　進路変更(1人)
平成30年度	230 人	6 人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	5 人	0 人	就学意欲の低下(3人)　進路変更(2人)
			平成30年度	1 人	0 人	他の教育機関への転学(1人)
令和元年度	333 人	0 人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	0 人	0 人	
			平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
合　計		8 人		8	0 人	

（注）・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下（○人）」というように、その人数も含めて記入してください。
（記入項目例）・就学意欲の低下　・学力不足　・他の教育機関への入学・転学　・海外留学
・就職　・学生個人の心身に関する事情　・家庭の事情　・除籍　・その他

（５）－⑤　調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成27年度】

$$\frac{\text{平成27年度の退学者数(a)}}{\text{平成27年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\text{\#DIV/0!}}\ \%$$

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\text{\#DIV/0!}}\ \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{119} = \boxed{1.68}\ \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{6}{230} = \boxed{2.6}\ \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{333} = \boxed{0}\ \%$$

（注）・ 小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。

2　授業科目の概要

＜看護学部　看護学科＞

（1）ー① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
基礎分野	情報リテラシー	1前	1			1					2
	論理的思考法	1後	1								1
	基礎ゼミナールⅠ	1前	1			3	3	3	1		
	基礎ゼミナールⅡ	1後	1			3	3	3	1		
	統計分析法	2前	1			1					
	日本語表現法（伝達表現）	1前	1								1
	英語コミュニケーションⅠ（基礎）	1前	1								2
	英語コミュニケーションⅡ（応用）	1後	1								2
	英語コミュニケーションⅢ（実践）	2前		1							2
	コミュニケーショントレーニング	1後		1							1
	健康と食生活	1前	1				1				5
	ライフサイクルと成長発達	1前	1			1					2
	well-being	1前	1			1					
	家族関係と生活の営み	1後	1			1					
	個人・集団の心理と行動	2後	1								1
	健康科学	1前		2							1
	社会経済と医療福祉	1後	1								1
	まちづくり概論	1前		1							1
	福祉とデザイン	1前		1							1
	民族・宗教と世界の歴史	1後		1							1
	国際と協力	2前		1		1					
	社会制度と法律	2前		2							1
	自己管理と社会規範	1前	1								1
	自己形成と職業倫理	1後	1								1
	他者理解と人間関係の形成	1後	1								1
	チームワークとリーダーシップ	1後	1			1					
	地域活動と社会貢献	2前	1						3		
	看護教育のための生物学・化学	1前			1						2
	看護教育のための数学	1前			1	1					
	看護教育のための物理学	1前			1						1
	小計（30科目）	－									
専門基礎分野	形態機能学（解剖Ⅰ）	1前	1								1
	形態機能学（解剖Ⅱ）	1後	1								1
	形態機能学（生理Ⅰ）	1前	1								1
	形態機能学（生理Ⅱ）	1後	1								1
	形態機能学演習	1後	1								3
	栄養・代謝機能（生化学）	2前	1								2
	薬理学	1後	2			1					
	病態疾病論Ⅰ	1後	2								4
	病態疾病論Ⅱ	1後	2								4
	病態疾病論Ⅲ	2前	2			1					4
	病態疾病論Ⅳ	2前	2								9
	感染免疫学	2前	1								1
	臨床工学	2前		1		1					
	公衆衛生学	2前	1								1
	保健医療福祉行政論	2後	2								1
	疫学	2後	2								1
	保健統計	2後	1								3
	小計（17科目）	－									

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
基礎分野	情報リテラシー	1前	1			1					2
	論理的思考法	1後	1								1
	基礎ゼミナールⅠ	1前	1			3	3	3	1		
	基礎ゼミナールⅡ	1後	1			3	3	3	1		
	統計分析法	2前	1			1					
	日本語表現法（伝達表現）	1前	1								1
	英語コミュニケーションⅠ（基礎）	1前	1								2
	英語コミュニケーションⅡ（応用）	1後	1								2
	英語コミュニケーションⅢ（実践）	2前		1							2
	コミュニケーショントレーニング	1後		1							1
	健康と食生活	1前	1				1				5
	ライフサイクルと成長発達	1前	1			1					1
	well-being	1前	1			1					
	家族関係と生活の営み	1後	1			1					
	個人・集団の心理と行動	2後	1								1
	健康科学	1前		2							1
	社会経済と医療福祉	1後	1								1
	まちづくり概論	1前		1							1
	福祉とデザイン	1前		1							1
	民族・宗教と世界の歴史	1後		1							1
	国際と協力	2前		1		1					
	社会制度と法律	2前		2							1
	自己管理と社会規範	1前	1								1
	自己形成と職業倫理	1後	1								1
	他者理解と人間関係の形成	1後	1								1
	チームワークとリーダーシップ	1後	1			1					
	地域活動と社会貢献	2前	1					2	1		
	看護教育のための生物学・化学	1前			1						2
	看護教育のための数学	1前			1	1					
	看護教育のための物理学	1前			1						1
	小計（30科目）	－									
専門基礎分野	形態機能学（解剖Ⅰ）	1前	1								2
	形態機能学（解剖Ⅱ）	1後	1								2
	形態機能学（生理Ⅰ）	1前	1								1
	形態機能学（生理Ⅱ）	1後	1								1
	形態機能学演習	1後	1								4
	栄養・代謝機能（生化学）	2前	1								2
	薬理学	1後	2			1					
	病態疾病論Ⅰ	1後	2								4
	病態疾病論Ⅱ	1後	2			1					4
	病態疾病論Ⅲ	2前	2			1					4
	病態疾病論Ⅳ	2前	2								9
	感染免疫学	2前	1								1
	臨床工学	2前		1		1					
	公衆衛生学	2前	1				1				1
	保健医療福祉行政論	2後	2								1
	疫学	2後	2				1				1
	保健統計	2後	1				1				2
	小計（17科目）	－									

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
専門分野	看護学概論	1前	1			1	1	1	2		
	基礎看護技術論演習	1前	1				1	1	2		
	日常生活援助論演習	1後	3				1	1	2		
	フィジカルアセスメント演習Ⅰ	1後	1				1	1	2		
	フィジカルアセスメント演習Ⅱ	2前	1				1	1	2		
	治療援助論演習	2前	1				1	1	2		
	看護過程論	2前	1				1	1	2		
	well-being care	2後	1			1		1	2		
	基礎看護学実習	1後	1			1	3	5	8	10	
	看護過程実習	2後	2			1	4	5	8	10	
	成人看護学概論	1後	1			1					
	急性期・回復期看護論Ⅰ	2前	1			2					
	急性期・回復期看護論Ⅱ	2後	1			2		1	1		
	慢性期・終末期看護論Ⅰ	2前	1			1	1				
	慢性期・終末期看護論Ⅱ	2後	1			2	1				
	健康回復支援論演習	3前	2			3	1	1	2		
	急性期・回復期看護学実習	3後	3			3	1	1	2	1	
	慢性期・終末期看護学実習	3後	3			2	1	1	2	1	
	母性看護学概論	2後	1			1					
	母性看護論	2後	1			1	1				
	母性看護論演習	3前	2			1	1				
	母性看護学実習	3後	2			1	1			1	
	小児看護学概論	2後	1			1					
	小児看護論	3前	1			1		1			
	小児看護論演習	3前	2			1		1	1		
	小児看護学実習	3後	2			1		1	1		
	精神看護学概論	2前	1				1				
	精神看護論	2後	1				1	1			
	精神看護論演習	3前	2				1	1			
	精神看護学実習	3後	2				1	1		1	
	高齢者看護学概論	2前	1			1					
	高齢者看護論	2後	1			1		1	2		
	高齢者看護論演習	2後	2			1		1	2		
	高齢者看護学実習	3後	2			1		1	2	1	
	在宅高齢者看護学実習	3後	2			1		1	2	1	
	在宅看護概論	2前	1			1					
	在宅看護論	3前	1			2	1		1		
	在宅看護論演習	3前	2			2	1	1	2		
	訪問看護論実習	3後	2			2	1	1	1	1	
	公衆衛生看護学概論	1後	2			1					
	公衆衛生看護活動論Ⅰ(個人・家族・グループ支援方法)	2後	1			1	1				
	公衆衛生看護活動論Ⅱ(組織・集団・地域支援方法)	3前		1		1					
	公衆衛生看護活動論Ⅲ(対象別公衆衛生看護活動論)	3前		1		1	3				
	公衆衛生看護活動論Ⅳ(学校保健・産業保健・健康危機管理)	4前		1		1	1				1
	公衆衛生看護活動論Ⅴ(公衆衛生看護管理)	4前		1		1					
	公衆衛生看護学実習	4通		5		1	1		1		
	家族看護論	2前	1			1					
	看護倫理	2前	1			2	1				
	口腔健康科学論	2後	1								4
	在宅高齢者ケア	3前	1			1		1	2		
	口腔機能援助論	4前	1				1		1		1
	well-being care統合	4前	2				1	5	8		
	看護管理	4前	1			1					
	包括的情報システム論	4前	1			1					1
	看護理論	1後		1		1					
	リハビリテーション看護	2後		1		1					
	災害看護	4前		1				1	1		1
	国際看護	4前		1		1					
	看護研究方法論	3前	1			1					
	看護課題研究	4通	2			7	5	1			
	統合看護学実習	4前	2			7	5	5	8		
	小計(61科目)	－									
合計(108科目)											

卒業要件及び履修方法

基礎分野(必修19単位および選択科目5単位以上)では24単位以上、専門基礎分野(必修科目23単位)および専門分野(必修科目75単位)では、選択科目(4単位以上)を履修し、合計126単位以上を修得していること。
保健師国家試験受験資格を希望する者は、卒業要件(126単位)の他に、専門分野の『公衆衛生看護学』の科目全て(9単位)を履修し、合計135単位以上を修得していること。
(履修科目の登録の上限:48単位(年間))

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
専門分野	看護学概論	1前	1			2	1	2	0		
	基礎看護技術論演習	1前	1			1	1	2	0		
	日常生活援助論演習	1後	3			1	1	2	0		
	フィジカルアセスメント演習Ⅰ	1後	1			1	1	2	0		
	フィジカルアセスメント演習Ⅱ	2前	1			1	1	2	0		
	治療援助論演習	2前	1			1	1	2	0		
	看護過程論	2前	1			1	1	2	0		
	well-being care	2後	1			2	1	2	0		
	基礎看護学実習	1後	1			2	3	7	5	10	
	看護過程実習	2後	2			3	3	7	5	10	
	成人看護学概論	1後	1			1					
	急性期・回復期看護論Ⅰ	2前	1			2					
	急性期・回復期看護論Ⅱ	2後	1			2		1	1		
	慢性期・終末期看護論Ⅰ	2前	1			1	1				
	慢性期・終末期看護論Ⅱ	2後	1			2	1				
	健康回復支援論演習	3前	2			3	1	1	2		
	急性期・回復期看護学実習	3後	3			3	1	1	2	1	
	慢性期・終末期看護学実習	3後	3			2	1	1	2	1	
	母性看護学概論	2後	1			1					
	母性看護論	2後	1			1	1				
	母性看護論演習	3前	2			1	1				
	母性看護学実習	3後	2			1	1			1	
	小児看護学概論	2後	1			1					
	小児看護論	3前	1			1		1			
	小児看護論演習	3前	2			1		1	1		
	小児看護学実習	3後	2			1		1	1		
	精神看護学概論	2前	1			1	0				
	精神看護論	2後	1			1	0	1			
	精神看護論演習	3前	2			1	0	1			
	精神看護学実習	3後	2			1	0	1		1	
	高齢者看護学概論	2前	1			1					
	高齢者看護論	2後	1			1		2	1		
	高齢者看護論演習	2後	2			1		2	1		
	高齢者看護学実習	3後	2			1		2	1	1	
	在宅高齢者看護学実習	3後	2			1		2	1	1	
	在宅看護概論	2前	1			1					
	在宅看護論	3前	1			2	1		1		
	在宅看護論演習	3前	2			2	1	2	1		
	訪問看護論実習	3後	2			2	1	1	1	1	
	公衆衛生看護学概論	1後	2			1					
	公衆衛生看護活動論Ⅰ(個人・家族・グループ支援方法)	2後	1			1	1				
	公衆衛生看護活動論Ⅱ(組織・集団・地域支援方法)	3前		1		1					
	公衆衛生看護活動論Ⅲ(対象別公衆衛生看護活動論)	3前		1		1	3				
	公衆衛生看護活動論Ⅳ(学校保健・産業保健・健康危機管理)	4前		1		1	1				1
	公衆衛生看護活動論Ⅴ(公衆衛生看護管理)	4前		1		1					
	公衆衛生看護学実習	4通		5		1	1		1		
	家族看護論	2前	1			1					
	看護倫理	2前	1			3	0				
	口腔健康科学論	2後	1								4
	在宅高齢者ケア	3前	1			1		2	1		
	口腔機能援助論	4前	1				1		1		1
	well-being care統合	4前	2				2	7	5		
	看護管理	4後	1			1					
	包括的情報システム論	4後	1			1					1
	看護理論	1後		1		1					
	リハビリテーション看護	2後		1		1					
	災害看護	4後		1				1	1		1
	国際看護	4後		1		1					
	看護研究方法論	3前	1			1					
	看護課題研究	4通	2			9	4	0			
	統合看護学実習	4前	2			9	4	7	5		
	小計(61科目)	－									
合計(108科目)											

卒業要件及び履修方法

基礎分野(必修19単位および選択科目5単位以上)では24単位以上、専門基礎分野(必修科目23単位)および専門分野(必修科目75単位)では、選択科目(4単位以上)を履修し、合計126単位以上を修得していること。
保健師国家試験受験資格を希望する者は、卒業要件(126単位)の他に、専門分野の『公衆衛生看護学』の科目全て(9単位)を履修し、合計135単位以上を修得していること。
(履修科目の登録の上限:48単位(年間))

【平成２９年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
基礎分野	情報リテラシー	1前	1			1					2
	論理的思考法	1後	1								1
	基礎ゼミナールⅠ	1前	1			3	1	2	1		
	基礎ゼミナールⅡ	1後	1			3	1	2	1		
	統計分析法	2前	1			1					
	日本語表現法（伝達表現）	1前	1								1
	英語コミュニケーションⅠ（基礎）	1前	1								2
	英語コミュニケーションⅡ（応用）	1後	1								2
	英語コミュニケーションⅢ（実践）	2前		1							2
	コミュニケーショントレーニング	1後		1							1
	健康と食生活	1前	1				1				5
	ライフサイクルと成長発達	1前	1			1					2
	well-being	1前	1			1					
	家族関係と生活の営み	1後	1			1					
	個人・集団の心理と行動	2後	1								1
	健康科学	1前		2							1
	社会経済と医療福祉	1後	1								1
	まちづくり概論	1前		1							1
	福祉とデザイン	1前		1							1
	民族・宗教と世界の歴史	1後		1							1
	国際と協力	2前		1		1					
	社会制度と法律	2前		2							1
	自己管理と社会規範	1前	1								1
	自己形成と職業倫理	1後	1								1
	他者理解と人間関係の形成	1後	1								1
	チームワークとリーダーシップ	1後	1			1					
	地域活動と社会貢献	2前	1						3		
	看護教育のための生物学・化学	1前			1						2
	看護教育のための数学	1前			1	1					
	看護教育のための物理学	1前			1						1
	小計（30科目）	－									
専門基礎分野	形態機能学（解剖Ⅰ）	1前	1								1
	形態機能学（解剖Ⅱ）	1後	1								1
	形態機能学（生理Ⅰ）	1前	1								1
	形態機能学（生理Ⅱ）	1後	1								1
	形態機能学演習	1後	1								3
	栄養・代謝機能（生化学）	2前	1								2
	薬理学	1後	2			1					
	病態疾病論Ⅰ	1後	2								4
	病態疾病論Ⅱ	1後	2								4
	病態疾病論Ⅲ	2前	2			1					4
	病態疾病論Ⅳ	2前	2								9
	感染免疫学	2前	1								1
	臨床工学	2前		1		1					
	公衆衛生学	2前	1								1
	保健医療福祉行政論	2後	2								1
	疫学	2後	2								1
	保健統計	2後	1								3
	小計（17科目）	－									

【平成３０年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
基礎分野	情報リテラシー	1前	1			1					2
	論理的思考法	1後	1								1
	基礎ゼミナールⅠ	1前	1			3	3	3	1		
	基礎ゼミナールⅡ	1後	1			3	3	3	1		
	統計分析法	2前	1			1					
	日本語表現法（伝達表現）	1前	1								1
	英語コミュニケーションⅠ（基礎）	1前	1								2
	英語コミュニケーションⅡ（応用）	1後	1								2
	英語コミュニケーションⅢ（実践）	2前		1							2
	コミュニケーショントレーニング	1後		1							1
	健康と食生活	1前	1				1				5
	ライフサイクルと成長発達	1前	1			1					2
	well-being	1前	1			1					
	家族関係と生活の営み	1後	1			1					
	個人・集団の心理と行動	2後	1								1
	健康科学	1前		2							1
	社会経済と医療福祉	1後	1								1
	まちづくり概論	1前		1							1
	福祉とデザイン	1前		1							1
	民族・宗教と世界の歴史	1後		1							1
	国際と協力	2前		1		1					
	社会制度と法律	2前		2							1
	自己管理と社会規範	1前	1								1
	自己形成と職業倫理	1後	1								1
	他者理解と人間関係の形成	1後	1								1
	チームワークとリーダーシップ	1後	1			1					
	地域活動と社会貢献	2前	1					2	1		
	看護教育のための生物学・化学	1前			1						2
	看護教育のための数学	1前			1	1					
	看護教育のための物理学	1前			1						1
	小計（30科目）	－									
専門基礎分野	形態機能学（解剖Ⅰ）	1前	1								2
	形態機能学（解剖Ⅱ）	1後	1								1
	形態機能学（生理Ⅰ）	1前	1								1
	形態機能学（生理Ⅱ）	1後	1								1
	形態機能学演習	1後	1								4
	栄養・代謝機能（生化学）	2前	1								2
	薬理学	1後	2			1					
	病態疾病論Ⅰ	1後	2								4
	病態疾病論Ⅱ	1後	2								4
	病態疾病論Ⅲ	2前	2			1					4
	病態疾病論Ⅳ	2前	2								9
	感染免疫学	2前	1								1
	臨床工学	2前		1		1					
	公衆衛生学	2前	1								1
	保健医療福祉行政論	2後	2								1
	疫学	2後	2								1
	保健統計	2後	1								3
	小計（17科目）	－									

【平成２９年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
専門分野	看護学概論	1前	1			1	1	1	2		
	基礎看護技術論演習	1前	1				1	1	2		
	日常生活援助論演習	1後	3				1	1	2		
	フィジカルアセスメント演習Ⅰ	1後	1				1	1	2		
	フィジカルアセスメント演習Ⅱ	2前	1				1	1	2		
	治療援助論演習	2前	1				1	1	2		
	看護過程論	2前	1				1	1	2		
	well-being care	2後	1			1		1	2		
	基礎看護学実習	1後	1			1	1	3	7	6	
	看護過程実習	2後	2			1	4	5	8	10	
	成人看護学概論	1後	1			0					1
	急性期・回復期看護論Ⅰ	2前	1			2					
	急性期・回復期看護論Ⅱ	2後	1			2		1	1		
	慢性期・終末期看護論Ⅰ	2前	1			1	1				
	慢性期・終末期看護論Ⅱ	2後	1			2	1				
	健康回復支援論演習	3前	2			3	1	1	2		
	急性期・回復期看護学実習	3後	3			3	1	1	2	1	
	慢性期・終末期看護学実習	3後	3			2	1	1	2	1	
	母性看護学概論	2後	1			1					
	母性看護論	2後	1			1	1				
	母性看護論演習	3前	2			1	1				
	母性看護学実習	3後	2			1	1			1	
	小児看護学概論	2後	1			1					
	小児看護論	3前	1			1		1			
	小児看護論演習	3前	2			1		1	1		
	小児看護学実習	3後	2			1		1	1		
	精神看護学概論	2前	1				1				
	精神看護論	2後	1				1	1			
	精神看護論演習	3前	2				1	1			
	精神看護学実習	3後	2				1	1		1	
	高齢者看護学概論	2前	1			1					
	高齢者看護論	2後	1			1		1	2		
	高齢者看護論演習	2後	2			1		1	2		
	高齢者看護学実習	3後	2			1		1	2	1	
	在宅高齢者看護学実習	3後	2			1		1	2	1	
	在宅看護概論	2前	1			1					
	在宅看護論	3前	1			2	1		1		
	在宅看護論演習	3前	2			2	1	1	2		
	訪問看護論実習	3後	2			2	1	1	1	1	
	公衆衛生看護学概論	1後	2			1					
	公衆衛生看護活動論Ⅰ（個人・家族・ｸﾞﾙｰﾌﾟ支援方法）	2後	1			1	1				
	公衆衛生看護活動論Ⅱ（組織・集団・地域支援方法）	3前		1		1					
	公衆衛生看護活動論Ⅲ（対象別公衆衛生看護活動論）	3前		1		1	3				
	公衆衛生看護活動論Ⅳ（学校保健・産業保健・健康危機管理）	4前		1		1	1				1
	公衆衛生看護活動論Ⅴ（公衆衛生看護管理）	4前		1		1					
	公衆衛生看護学実習	4通		5		1	1		1		
	家族看護論	2前	1			1					
	看護倫理	2前	1			2	1				
	口腔健康科学論	2後	1								4
	在宅高齢者ケア	3前	1			1		1	2		
	口腔機能援助論	4前	1				1		1		1
	well-being care統合	4前	2				1	5	8		
	看護管理	4前	1			1					
	包括的情報システム論	4前	1			1					1
	看護理論	1後		1		1					
	リハビリテーション看護	2後		1		1					
	災害看護	4前		1				1	1		1
	国際看護	4前		1		1					
	看護研究方法論	3前	1			1					
	看護課題研究	4通	2			7	5	1			
	統合看護学実習	4前	2			7	5	5	8		

卒業要件及び履修方法

基礎分野（必修19単位および選択科目5単位以上）では24単位以上、専門基礎分野（必修科目23単位）および専門分野（必修科目75単位）では、選択科目（4単位以上）を履修し、合計126単位以上を修得していること。
保健師国家試験受験資格を希望する者は、卒業要件（126単位）の他に、専門分野の『公衆衛生看護学』の科目全て（9単位）を履修し、合計135単位以上を修得していること。
（履修科目の登録の上限：48単位（年間））

【平成３０年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
専門分野	看護学概論	1前	1			2	1	2	0		
	基礎看護技術論演習	1前	1			1	1	2	0		
	日常生活援助論演習	1後	3			1	1	2	0		
	フィジカルアセスメント演習Ⅰ	1後	1			1	1	2	0		
	フィジカルアセスメント演習Ⅱ	2前	1			1	1	2	0		
	治療援助論演習	2前	1			1	1	2	0		
	看護過程論	2前	1			1	1	2	0		
	well-being care	2後	1			1	1	2	0		
	基礎看護学実習	1後	1			2	3	7	5	10	
	看護過程実習	2後	2			3	3	7	5	10	
	成人看護学概論	1後	1			1					0
	急性期・回復期看護論Ⅰ	2前	1			2					
	急性期・回復期看護論Ⅱ	2後	1			2		1	1		
	慢性期・終末期看護論Ⅰ	2前	1			1	1				
	慢性期・終末期看護論Ⅱ	2後	1			2	1				
	健康回復支援論演習	3前	2			3	1	1	2		
	急性期・回復期看護学実習	3後	3			3	1	1	2	1	
	慢性期・終末期看護学実習	3後	3			2	1	1	2	1	
	母性看護学概論	2後	1			1					
	母性看護論	2後	1			1	1				
	母性看護論演習	3前	2			1	1				
	母性看護学実習	3後	2			1	1			1	
	小児看護学概論	2後	1			1					
	小児看護論	3前	1			1		1			
	小児看護論演習	3前	2			1		1	1		
	小児看護学実習	3後	2			1		1	1		
	精神看護学概論	2前	1			1	0				
	精神看護論	2後	1			1	0	1			
	精神看護論演習	3前	2			1	0	1			
	精神看護学実習	3後	2			1	0	1		1	
	高齢者看護学概論	2前	1			1					
	高齢者看護論	2後	1			1		2	1		
	高齢者看護論演習	2後	2			1		2	1		
	高齢者看護学実習	3後	2			1		2	1	1	
	在宅高齢者看護学実習	3後	2			1		2	1	1	
	在宅看護概論	2前	1			1					
	在宅看護論	3前	1			2	1		1		
	在宅看護論演習	3前	2			2	1	2	1		
	訪問看護論実習	3後	2			2	1	1	1	1	
	公衆衛生看護学概論	1後	2			1					
	公衆衛生看護活動論Ⅰ（個人・家族・ｸﾞﾙｰﾌﾟ支援方法）	2後	1			1	1				
	公衆衛生看護活動論Ⅱ（組織・集団・地域支援方法）	3前		1		1					
	公衆衛生看護活動論Ⅲ（対象別公衆衛生看護活動論）	3前		1		1	3				
	公衆衛生看護活動論Ⅳ（学校保健・産業保健・健康危機管理）	4前		1		1	1				1
	公衆衛生看護活動論Ⅴ（公衆衛生看護管理）	4前		1		1					
	公衆衛生看護学実習	4通		5		1	1		1		
	家族看護論	2前	1			1					
	看護倫理	2前	1			3	0				
	口腔健康科学論	2後	1								4
	在宅高齢者ケア	3前	1			1		2	1		
	口腔機能援助論	4前	1				1		1		1
	well-being care統合	4前	2				2	7	5		
	看護管理	4後	1			1					
	包括的情報システム論	4後	1			1					1
	看護理論	1後		1		1					
	リハビリテーション看護	2後		1		1					
	災害看護	4後		1				1	1		1
	国際看護	4後		1		1					
	看護研究方法論	3前	1			1					
	看護課題研究	4通	2			9	4	0			
	統合看護学実習	4前	2			9	4	7	5		

卒業要件及び履修方法

基礎分野（必修19単位および選択科目5単位以上）では24単位以上、専門基礎分野（必修科目23単位）および専門分野（必修科目75単位）では、選択科目（4単位以上）を履修し、合計126単位以上を修得していること。
保健師国家試験受験資格を希望する者は、卒業要件（126単位）の他に、専門分野の『公衆衛生看護学』の科目全て（9単位）を履修し、合計135単位以上を修得していること。
（履修科目の登録の上限：48単位（年間））

（注）
- 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
- 認可申請書又は設置届出書の様式第２号（その２の１）に準じて作成してください。
- 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
- 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任、兼担教員が担当する科目を含む。）を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
- 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「（未開講）」として記入してください。
- １ページ目には認可時又は届出時と報告年度２つの表を記入してください。
- 不要な年度（平成２９年度開設であれば平成２８年度）の表は適宜削除してください。（２つの表が１ページに表示されるようにしてください。）

（１）ー②授業科目表に関する変更内容

【平成２９年度】

・「情報リテラシー」、「看護教育のための物理学」担当の兼任講師１名の辞退による変更、兼任講師２名で対応。
・「基礎ゼミナールⅠ」、「基礎ゼミナールⅡ」、「基礎看護学実習」について、平成29年度着任教員のみで対応のため、専任教員等の配置を変更。
・「成人看護学概論」担当の教員が、平成30年度から専任教員として着任するため、「成人看護学概論」の専任教員等の配置を平成29年について「教授１」から「兼任１」に変更。

【平成３０年度】

・専任教員のうち准教授２名、講師１名、助教３名について、職位の変更に係る専任教員採用等設置計画変更書を平成29年12月に提出し、６名全ての教員が職位適格の審査結果を受け、平成３０年４月１日付で教授２名、准教授１名、講師３名への昇任となった。専任教員の増減については、職位変更によるものだけで設置計画どおり着任している。
・「社会経済と医療福祉」について、兼任講師の変更。
・「形態機能学（解剖Ⅰ）」について、兼任講師の変更及び２名によるオムニバス形式に変更。
・「形態機能学演習」について、兼任講師１名辞退による変更及び教育課程充実のため兼任講師１名の追加。
・平成30年度より専任教員として着任したことにより、「成人看護学概論」の専任教員等の配置を「兼任１」から「教授１」に変更。
・「看護管理」、「包括的情報システム論」、「災害看護」、「国際看護」の開講期について、４年次「前期」から「後期」に変更。

【令和元年度】

・本学専任教員が平成31年1月のＡＣ教員審査において可となったため、「ﾗｲﾌｻｲｸﾙと成長発達」の兼任・兼担の配置を「兼任・兼担２」から「兼任・兼担１」に変更。
・「形態機能学（解剖Ⅱ）」について、兼任講師の変更及び２名によるオムニバス形式に変更。
・本学専任教員が平成31年1月のＡＣ教員審査において可となったため、「病態疾病論Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授０」から「教授１」に変更。
・本学専任教員が平成31年1月のＡＣ教員審査において可となったため、「公衆衛生学」の専任教員等の配置を「准教授０」から「准教授１」に変更し、オムニバスで行う。
・本学専任教員が平成31年1月のＡＣ教員審査において可となったため、「疫学」の専任教員等の配置を「准教授０」から「准教授１」に変更し、オムニバスで行う。
・本学専任教員が平成31年1月のＡＣ教員審査において可となったため、「保健統計」の専任教員等の配置を「准教授０」から「准教授１」に変更し、兼任・兼担の配置を「兼任・兼担３」から「兼任・兼担２」に変更。
・本学専任教員が平成31年1月のＡＣ教員審査において可となったため、「well-being care」の専任教員等の配置を「教授１」から「教授２」に変更。

（注）・　２（１）ー① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
・　変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
・　不要な年度（平成２９年度開設であれば平成２８年度）の表は適宜削除してください。

（２） 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計（Ａ）	必修	選択	自由	計	
87 科目	18 科目	3 科目	108 科目	－ 科目 [0]	－ 科目 [0]	－ 科目 [0]	－ 科目 [0]	

（注）・　未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、［　］内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：１科目減の場合：△１）

（３） 未開講科目

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

（注）・　配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
・　履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
・　教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

（４） 廃止科目

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

（注）・　設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
・　教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

（５） 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

（注）・　授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

（６） 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（３）と廃止科目（４）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（Ａ）}} = \frac{0}{108} = 0\%$$

（注）・　小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。
・　「未開講科目と廃止科目の計」が、「（３）未開講科目」と「（４）廃止科目」の合計数となるように留意してください。

３　施設・設備の整備状況，経費

区分		内容				備考
（1）校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	・福岡歯科大学（11,047㎡）・福岡医療短期大学(3,200㎡)と共用 （　）内は設置基準面積 ・福岡歯科大学医科歯科総合病院薬局の薬剤師確保困難解消及び患者の利便性向上のため院外薬局をキャンパス内テニスコート敷地の一角に設置した。（30） ・現在、福岡歯科大学医科歯科総合病院の建替工事を行っており院外薬局を移転した。（元）
	校舎敷地	0㎡	64,415.53　~~64,721.47㎡~~	1,159.00㎡	65,574.53　~~65,880.47㎡~~	
	運動場用地	0㎡	28,441.95　~~27,985.95㎡~~	0㎡	28,441.95　~~27,985.95㎡~~	
	小計	0㎡	92,857.48　~~92,707.42㎡~~	1,159.00㎡	94,016.48　~~93,866.42㎡~~	
	その他	0㎡	0㎡	9,503.58㎡	9,503.58㎡	
	合計	0㎡	92,857.48　~~92,707.42㎡~~	10,662.58㎡	103,520.06　~~103,370.00㎡~~	

（2）校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	備考
	6,397.09㎡	7,206.22　~~7,189.82㎡~~	32,632.75　~~32,661.15㎡~~	46,236.06　~~46,248.06㎡~~	・福岡歯科大学(17,200㎡)・福岡医療短期大学(3,450㎡)と共用 ・共用及び共用する他の学校等の専用の変更（元）
	（　6,397.09㎡）	（7,206.22　~~7,189.82㎡~~）	（32,632.75　~~32,661.15㎡~~）	（46,236.06　~~46,248.06㎡~~）	

（3）教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	備考
	4室	8室	3室	1室 （補助職員　－人）	0室 （補助職員　－人）	大学全体

（4）専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	備考
	看護学部　看護学科	25　室	

（5）図書・設備	新設学部等の名称	図書〔うち外国書〕冊	学術雑誌〔うち外国書〕種	電子ジャーナル〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	備考
	看護学部看護学科	4,846〔252〕 （4,846〔252〕）	39〔6〕 （39〔6〕）	4〔4〕 （4〔4〕）	348 （348）	6,164 （6,164　~~6,092~~）	24 （24）	
	計	4,846〔252〕 （4,846〔252〕）	39〔6〕 （39〔6〕）	4〔4〕 （4〔4〕）	348 （348）	6,164 （6,164　~~6,092~~）	24 （24）	

（6）図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	備考
	396.37㎡	96	16,640	大学全体

（7）体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要			備考
	3,672.00㎡	弓道場	テニスコート	他	大学全体

（8）経費の見積り及び維持方法の概要

経費の見積り 区分	開設年度	完成年度	区分	開設前年度	開設年度	完成年度
教員１人当り研究費等	353千円	354千円	図書購入費	19,216千円	8,290千円	1,978千円
共同研究費等	2,000千円	3,000千円	設備購入費	283,855千円	22,343千円	0千円

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	1,800千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	千円	千円

学生納付金以外の維持方法の概要	寄付金、補助金収入等

備考：図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。

（注）・　設置時の計画を、申請書の様式第２号（その１の１）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「（１）校地等」及び「（２）校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はＡＣ対象学部等の数値を記入してください。）

・　運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。

・　「(５)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年５月１日現在の数値を記入してください。

・　昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「（元）」を「備考」に赤字で記入してください。

なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。

・　校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。

・　国立大学については「（８）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

４．既設大学等の状況

大学の名称	福岡看護大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度（AC期間の学科のみ）	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	年度	年度	年度	
看護学部看護学科	4	100	－	400	学士（看護学）	1.13	－	平成29年度	福岡県福岡市早良区田村二丁目15番1号	

大学の名称	福岡歯科大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度（AC期間の学科のみ）	開設年度	所在地	
口腔歯学部口腔歯学科	6	120	—	720	学士（歯学）	0.76	－	昭和48年度	福岡県福岡市早良区田村二丁目15番1号	
歯学研究科歯学専攻	4	18	—	72	博士（歯学）	0.56	－	昭和60年度	福岡県福岡市早良区田村二丁目15番1号	

大学の名称	福岡医療短期大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度（AC期間の学科のみ）	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍				
歯科衛生学科	3	80	－	240	短期大学士（歯科衛生学）	0.82		平成９年度	福岡県福岡市早良区田村二丁目15番1号	
保健福祉学科	2	40	－	80	短期大学士（介護福祉学）	0.22		平成12年度	福岡県福岡市早良区田村二丁目15番1号	

（注）・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学（大学院含む）、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の５月１日現在の状況を記入してください。（専攻科及び別科を除く）。
・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
・本年度ＡＣ対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き（平成31年度改訂版）」と同じです。
・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5　教員組織の状況

＜看護学部　看護学科＞

（１）ー① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授（学長）	窪田 惠子 ＜平成29年4月＞	well-being 看護学概論 看護理論 基礎看護学実習 well-being care 看護倫理 高齢者看護学概論
専	教授（学部長）	飯野 英親 ＜平成29年4月＞	家族関係と生活の営み 小児看護学概論 家族看護論 看護倫理 小児看護論 小児看護論演習 看護研究方法論 小児看護学実習 看護管理 看護課題研究 統合看護学実習
専	教授	岩本 利恵 ＜平成29年4月＞	慢性期・終末期看護論Ⅰ 慢性期・終末期看護論Ⅱ 健康回復支援論演習 急性期・回復期看護学実習 慢性期・終末期看護学実習 看護課題研究 統合看護学実習
専	教授	内田 荘平 ＜平成29年4月＞	ﾁｰﾑﾜｰｸとﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ 臨床工学 急性期・回復期看護論Ⅰ 急性期・回復期看護論Ⅱ 健康回復支援論演習 急性期・回復期看護学実習 看護課題研究 統合看護学実習
専	教授	大久保 つや子 ＜平成29年4月＞	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ 薬理学
専	教授	岡田 賢司 ＜平成29年4月＞	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ ﾗｲﾌｻｲｸﾙと成長発達 病態疾病論Ⅲ
専	教授	角森 輝美 ＜平成29年4月＞	公衆衛生看護学概論 公衆衛生看護活動論Ⅰ（個人･家族･ｸﾞﾙｰﾌﾟ支援方法） 在宅看護論 在宅看護論演習 公衆衛生看護活動論Ⅱ（組織・集団・地域支援方法） 公衆衛生看護活動論Ⅲ（対象別公衆衛生看護活動論） 訪問看護論実習 包括的情報ｼｽﾃﾑ論 看護課題研究 統合看護学実習 公衆衛生看護活動論Ⅳ（学校保健･産業保健･健康危機管理） 公衆衛生看護活動論Ⅴ（公衆衛生看護管理） 公衆衛生看護学実習
専	教授	梶原 恭子 ＜平成29年4月＞	母性看護学概論 母性看護論 看護過程実習 母性看護論演習 母性看護学実習 看護課題研究 統合看護学実習
専	教授	嶋田　香 ＜平成29年4月＞	情報ﾘﾃﾗｼｰ 看護教育のための数学 統計分析法 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ
専	教授	宮園（篠原）真美 ＜平成30年4月＞	高齢者看護論 高齢者看護論演習 在宅看護概論 在宅看護論 在宅看護論演習 在宅高齢者ケア 高齢者看護学実習 在宅高齢者看護学実習 訪問看護論実習 看護課題研究 統合看護学実習

【平成２９年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授（学長）	窪田 惠子 ＜平成29年4月＞	well-being 看護学概論 看護理論 基礎看護学実習 well-being care 看護倫理 高齢者看護学概論
専	教授（学部長）	飯野 英親 ＜平成29年4月＞	家族関係と生活の営み 小児看護学概論 家族看護論 看護倫理 小児看護論 小児看護論演習 看護研究方法論 小児看護学実習 看護管理 看護課題研究 統合看護学実習
専	教授	岩本 利恵 ＜平成29年4月＞	慢性期・終末期看護論Ⅰ 慢性期・終末期看護論Ⅱ 健康回復支援論演習 急性期・回復期看護学実習 慢性期・終末期看護学実習 看護課題研究 統合看護学実習
専	教授	内田 荘平 ＜平成29年4月＞	ﾁｰﾑﾜｰｸとﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ 臨床工学 急性期・回復期看護論Ⅰ 急性期・回復期看護論Ⅱ 健康回復支援論演習 急性期・回復期看護学実習 看護課題研究 統合看護学実習
専	教授	大久保 つや子 ＜平成29年4月＞	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ 薬理学
専	教授	岡田 賢司 ＜平成29年4月＞	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ ﾗｲﾌｻｲｸﾙと成長発達 病態疾病論Ⅲ
専	教授	角森 輝美 ＜平成29年4月＞	公衆衛生看護学概論 公衆衛生看護活動論Ⅰ（個人･家族･ｸﾞﾙｰﾌﾟ支援方法） 在宅看護論 在宅看護論演習 公衆衛生看護活動論Ⅱ（組織・集団・地域支援方法） 公衆衛生看護活動論Ⅲ（対象別公衆衛生看護活動論） 訪問看護論実習 包括的情報ｼｽﾃﾑ論 看護課題研究 統合看護学実習 公衆衛生看護活動論Ⅳ（学校保健･産業保健･健康危機管理） 公衆衛生看護活動論Ⅴ（公衆衛生看護管理） 公衆衛生看護学実習
専	教授	梶原 恭子 ＜平成29年4月＞	母性看護学概論 母性看護論 看護過程実習 母性看護論演習 母性看護学実習 看護課題研究 統合看護学実習
専	教授	嶋田　香 ＜平成29年4月＞	情報ﾘﾃﾗｼｰ 看護教育のための数学 統計分析法 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ
専	教授	宮園（篠原）真美 ＜平成30年4月＞	高齢者看護論 高齢者看護論演習 在宅看護概論 在宅看護論 在宅看護論演習 在宅高齢者ケア 高齢者看護学実習 在宅高齢者看護学実習 訪問看護論実習 看護課題研究 統合看護学実習

【平成３０年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授（学長）	窪田 惠子 ＜平成29年4月＞	well-being 看護学概論 看護理論 基礎看護学実習 well-being care 看護倫理 高齢者看護学概論
専	教授（学部長）	飯野 英親 ＜平成29年4月＞	家族関係と生活の営み 小児看護学概論 家族看護論 看護倫理 小児看護論 小児看護論演習 看護研究方法論 小児看護学実習 看護管理 看護課題研究 統合看護学実習
専	教授	岩本 利恵 ＜平成29年4月＞	慢性期・終末期看護論Ⅰ 慢性期・終末期看護論Ⅱ 健康回復支援論演習 急性期・回復期看護学実習 慢性期・終末期看護学実習 看護課題研究 統合看護学実習
専	教授	内田 荘平 ＜平成29年4月＞	ﾁｰﾑﾜｰｸとﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ 臨床工学 急性期・回復期看護論Ⅰ 急性期・回復期看護論Ⅱ 健康回復支援論演習 急性期・回復期看護学実習 看護課題研究 統合看護学実習
専	教授	大久保 つや子 ＜平成29年4月＞	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ 薬理学
専	教授	岡田 賢司 ＜平成29年4月＞	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ ﾗｲﾌｻｲｸﾙと成長発達 病態疾病論Ⅲ
専	教授	角森 輝美 ＜平成29年4月＞	公衆衛生看護学概論 公衆衛生看護活動論Ⅰ（個人･家族･ｸﾞﾙｰﾌﾟ支援方法） 在宅看護論 在宅看護論演習 公衆衛生看護活動論Ⅱ（組織・集団・地域支援方法） 公衆衛生看護活動論Ⅲ（対象別公衆衛生看護活動論） 訪問看護論実習 包括的情報ｼｽﾃﾑ論 看護課題研究 統合看護学実習 公衆衛生看護活動論Ⅳ（学校保健･産業保健･健康危機管理） 公衆衛生看護活動論Ⅴ（公衆衛生看護管理） 公衆衛生看護学実習
専	教授	梶原 恭子 ＜平成29年4月＞	母性看護学概論 母性看護論 看護過程実習 母性看護論演習 母性看護学実習 看護課題研究 統合看護学実習
専	教授	嶋田　香 ＜平成29年4月＞	情報ﾘﾃﾗｼｰ 看護教育のための数学 統計分析法 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ
専	教授	宮園（篠原）真美 ＜平成30年4月＞	高齢者看護論 高齢者看護論演習 在宅看護概論 在宅看護論 在宅看護論演習 在宅高齢者ケア 高齢者看護学実習 在宅高齢者看護学実習 訪問看護論実習 看護課題研究 統合看護学実習

【令和元年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授（学長）	窪田 惠子 ＜平成29年4月＞	well-being 看護学概論 看護理論 基礎看護学実習 well-being care 看護倫理
専	教授（学部長）	飯野 英親 ＜平成29年4月＞	家族関係と生活の営み 小児看護学概論 家族看護論 看護倫理 小児看護論 小児看護論演習 看護研究方法論 小児看護学実習 看護管理 看護課題研究 統合看護学実習
専	教授	岩本 利恵 ＜平成29年4月＞	慢性期・終末期看護論Ⅰ 慢性期・終末期看護論Ⅱ 健康回復支援論演習 急性期・回復期看護学実習 慢性期・終末期看護学実習 看護課題研究 統合看護学実習
専	教授	内田 荘平 ＜平成29年4月＞	ﾁｰﾑﾜｰｸとﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ 臨床工学 急性期・回復期看護論Ⅰ 急性期・回復期看護論Ⅱ 健康回復支援論演習 急性期・回復期看護学実習 看護課題研究 統合看護学実習
専	教授	大久保 つや子 ＜平成29年4月＞	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ 薬理学
専	教授	岡田 賢司 ＜平成29年4月＞	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ ﾗｲﾌｻｲｸﾙと成長発達 病態疾病論Ⅱ 病態疾病論Ⅲ
専	教授	角森 輝美 ＜平成29年4月＞	公衆衛生看護学概論 公衆衛生看護活動論Ⅰ（個人･家族･ｸﾞﾙｰﾌﾟ支援方法） 在宅看護論 在宅看護論演習 公衆衛生看護活動論Ⅱ（組織・集団・地域支援方法） 公衆衛生看護活動論Ⅲ（対象別公衆衛生看護活動論） 訪問看護論実習 包括的情報ｼｽﾃﾑ論 看護課題研究 統合看護学実習 公衆衛生看護活動論Ⅳ（学校保健･産業保健･健康危機管理） 公衆衛生看護活動論Ⅴ（公衆衛生看護管理） 公衆衛生看護学実習
専	教授	梶原 恭子 ＜平成29年4月＞	母性看護学概論 母性看護論 看護過程実習 母性看護論演習 母性看護学実習 看護課題研究 統合看護学実習
専	教授	嶋田　香 ＜平成29年4月＞	情報ﾘﾃﾗｼｰ 看護教育のための数学 統計分析法 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ
専	教授	宮園（篠原）真美 ＜平成30年4月＞	高齢者看護学概論 高齢者看護論 高齢者看護論演習 在宅看護概論 在宅看護論 在宅看護論演習 在宅高齢者ケア 高齢者看護学実習 在宅高齢者看護学実習 訪問看護論実習 看護課題研究 統合看護学実習

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	村田 節子 ＜平成30年4月＞	国際と協力 急性期・回復期看護論Ⅰ 急性期・回復期看護論Ⅱ 慢性期・終末期看護論Ⅱ ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ看護 健康回復支援論演習 急性期・回復期看護学実習 慢性期・終末期看護学実習 国際看護 看護課題研究 統合看護学実習
兼任	講師	村田 節子 ＜平成29年4月＞	成人看護学概論
専	准教授	青木 久恵 ＜平成29年4月＞	看護学概論 基礎看護技術論演習 日常生活援助論演習 ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ演習Ⅰ 基礎看護学実習 ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ演習Ⅱ 治療援助論演習 看護過程論 看護過程実習 看護課題研究 統合看護学実習
専	准教授	大城 知子 ＜平成30年4月＞	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ 基礎看護学実習 慢性期・終末期看護論Ⅰ 慢性期・終末期看護論Ⅱ 看護過程実習 健康回復支援論演習 公衆衛生看護活動論Ⅲ(対象別公衆衛生看護活動論) 急性期・回復期看護学実習 慢性期・終末期看護学実習 well-being care統合 看護課題研究 統合看護学実習
専	准教授	中島 富有子 ＜平成29年4月＞	精神看護学概論 精神看護論 看護倫理 看護過程実習 精神看護論演習 精神看護学実習 看護課題研究 統合看護学実習
専	准教授	永田 華千代 ＜平成30年4月＞	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ 基礎看護学実習 母性看護論 看護過程実習 母性看護論演習 母性看護学実習 看護課題研究 統合看護学実習
専	准教授	晴佐久 悟 ＜平成29年4月＞	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ 健康と食生活 公衆衛生看護活動論Ⅲ（対象別公衆衛生看護活動論） 口腔機能援助論
専	准教授	森中 恵子 ＜平成29年4月＞	公衆衛生看護活動論Ⅰ(個人･家族･ｸﾞﾙｰﾌﾟ支援方法) 在宅看護論 在宅看護論演習 公衆衛生看護活動論Ⅲ(対象別公衆衛生看護活動論) 訪問看護論実習 看護課題研究 統合看護学実習 公衆衛生看護活動論Ⅳ(学校保健･産業保健･健康危機管理) 公衆衛生看護学実習
専	講師	梶原 江美 ＜平成29年4月＞	看護学概論 基礎看護技術論演習 日常生活援助論演習 ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ演習Ⅰ 基礎看護学実習 ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ演習Ⅱ 治療援助論演習 看護過程論 well-being care 看護過程実習 well-being care統合 看護課題研究 統合看護学実習
専	講師	倉成 由美 ＜平成30年4月＞	基礎看護学実習 精神看護論 看護過程実習 精神看護論演習 精神看護学実習 well-being care統合 統合看護学実習

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	村田 節子 ＜平成30年4月＞	国際と協力 急性期・回復期看護論Ⅰ 急性期・回復期看護論Ⅱ 慢性期・終末期看護論Ⅱ ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ看護 健康回復支援論演習 急性期・回復期看護学実習 慢性期・終末期看護学実習 国際看護 看護課題研究 統合看護学実習
兼任	講師	村田 節子 ＜平成29年4月＞	成人看護学概論
専	准教授	青木 久恵 ＜平成29年4月＞	看護学概論 基礎看護技術論演習 日常生活援助論演習 ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ演習Ⅰ 基礎看護学実習 ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ演習Ⅱ 治療援助論演習 看護過程論 看護過程実習 看護課題研究 統合看護学実習
専	准教授	大城 知子 ＜平成30年4月＞	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ 基礎看護学実習 慢性期・終末期看護論Ⅰ 慢性期・終末期看護論Ⅱ 看護過程実習 健康回復支援論演習 公衆衛生看護活動論Ⅲ(対象別公衆衛生看護活動論) 急性期・回復期看護学実習 慢性期・終末期看護学実習 well-being care統合 看護課題研究 統合看護学実習
専	准教授	中島 富有子 ＜平成29年4月＞	精神看護学概論 精神看護論 看護倫理 看護過程実習 精神看護論演習 精神看護学実習 看護課題研究 統合看護学実習
専	准教授	永田 華千代 ＜平成30年4月＞	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ 基礎看護学実習 母性看護論 看護過程実習 母性看護論演習 母性看護学実習 看護課題研究 統合看護学実習
専	准教授	晴佐久 悟 ＜平成29年4月＞	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ 健康と食生活 公衆衛生看護活動論Ⅲ（対象別公衆衛生看護活動論） 口腔機能援助論
専	准教授	森中 恵子 ＜平成29年4月＞	公衆衛生看護活動論Ⅰ(個人･家族･ｸﾞﾙｰﾌﾟ支援方法) 在宅看護論 在宅看護論演習 公衆衛生看護活動論Ⅲ(対象別公衆衛生看護活動論) 訪問看護論実習 看護課題研究 統合看護学実習 公衆衛生看護活動論Ⅳ(学校保健･産業保健･健康危機管理) 公衆衛生看護学実習
専	講師	梶原 江美 ＜平成29年4月＞	看護学概論 基礎看護技術論演習 日常生活援助論演習 ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ演習Ⅰ 基礎看護学実習 ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ演習Ⅱ 治療援助論演習 看護過程論 well-being care 看護過程実習 well-being care統合 看護課題研究 統合看護学実習
専	講師	倉成 由美 ＜平成30年4月＞	基礎看護学実習 精神看護論 看護過程実習 精神看護論演習 精神看護学実習 well-being care統合 統合看護学実習

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	村田 節子 ＜平成30年4月＞	国際と協力 急性期・回復期看護論Ⅰ 急性期・回復期看護論Ⅱ 慢性期・終末期看護論Ⅱ ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ看護 健康回復支援論演習 急性期・回復期看護学実習 慢性期・終末期看護学実習 国際看護 看護課題研究 統合看護学実習 成人看護学概論
専	教授	青木 久恵 ＜平成29年4月＞	看護学概論 基礎看護技術論演習 日常生活援助論演習 ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ演習Ⅰ 基礎看護学実習 ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ演習Ⅱ 治療援助論演習 看護過程論 看護過程実習 看護課題研究 統合看護学実習
専	准教授	大城 知子 ＜平成30年4月＞	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ 基礎看護学実習 慢性期・終末期看護論Ⅰ 慢性期・終末期看護論Ⅱ 看護過程実習 健康回復支援論演習 公衆衛生看護活動論Ⅲ(対象別公衆衛生看護活動論) 急性期・回復期看護学実習 慢性期・終末期看護学実習 well-being care統合 看護課題研究 統合看護学実習
専	教授	中島 富有子 ＜平成29年4月＞	精神看護学概論 精神看護論 看護倫理 看護過程実習 精神看護論演習 精神看護学実習 看護課題研究 統合看護学実習
専	准教授	永田 華千代 ＜平成30年4月＞	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ 基礎看護学実習 母性看護論 看護過程実習 母性看護論演習 母性看護学実習 看護課題研究 統合看護学実習
専	准教授	晴佐久 悟 ＜平成29年4月＞	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ 健康と食生活 公衆衛生看護活動論Ⅲ（対象別公衆衛生看護活動論） 口腔機能援助論
専	准教授	森中 恵子 ＜平成29年4月＞	公衆衛生看護活動論Ⅰ(個人･家族･ｸﾞﾙｰﾌﾟ支援方法) 在宅看護論 在宅看護論演習 公衆衛生看護活動論Ⅲ(対象別公衆衛生看護活動論) 訪問看護論実習 看護課題研究 統合看護学実習 公衆衛生看護活動論Ⅳ(学校保健･産業保健･健康危機管理) 公衆衛生看護学実習
専	准教授	梶原 江美 ＜平成29年4月＞	看護学概論 基礎看護技術論演習 日常生活援助論演習 ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ演習Ⅰ 基礎看護学実習 ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ演習Ⅱ 治療援助論演習 看護過程論 well-being care 看護過程実習 well-being care統合 看護課題研究 統合看護学実習
専	講師	倉成 由美 ＜平成30年4月＞	基礎看護学実習 精神看護論 看護過程実習 精神看護論演習 精神看護学実習 well-being care統合 統合看護学実習

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	村田 節子 ＜平成30年4月＞	国際と協力 急性期・回復期看護論Ⅰ 急性期・回復期看護論Ⅱ 慢性期・終末期看護論Ⅱ ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ看護 健康回復支援論演習 急性期・回復期看護学実習 慢性期・終末期看護学実習 国際看護 看護課題研究 統合看護学実習 成人看護学概論
専	教授	青木 久恵 ＜平成29年4月＞	看護学概論 基礎看護技術論演習 日常生活援助論演習 ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ演習Ⅰ 基礎看護学実習 ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ演習Ⅱ 治療援助論演習 看護過程論 well-being care 看護過程実習 看護課題研究 統合看護学実習
専	准教授	大城 知子 ＜平成30年4月＞	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ 基礎看護学実習 慢性期・終末期看護論Ⅰ 慢性期・終末期看護論Ⅱ 看護過程実習 健康回復支援論演習 公衆衛生看護活動論Ⅲ(対象別公衆衛生看護活動論) 急性期・回復期看護学実習 慢性期・終末期看護学実習 well-being care統合 看護課題研究 統合看護学実習
専	教授	中島 富有子 ＜平成29年4月＞	精神看護学概論 精神看護論 看護倫理 看護過程実習 精神看護論演習 精神看護学実習 看護課題研究 統合看護学実習
専	准教授	永田 華千代 ＜平成30年4月＞	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ 基礎看護学実習 母性看護論 看護過程実習 母性看護論演習 母性看護学実習 看護課題研究 統合看護学実習
専	准教授	晴佐久 悟 ＜平成29年4月＞	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ 健康と食生活 公衆衛生看護活動論Ⅲ（対象別公衆衛生看護活動論） 口腔機能援助論 公衆衛生学 疫学 保健統計
専	准教授	森中 恵子 ＜平成29年4月＞	公衆衛生看護活動論Ⅰ(個人･家族･ｸﾞﾙｰﾌﾟ支援方法) 在宅看護論 在宅看護論演習 公衆衛生看護活動論Ⅲ(対象別公衆衛生看護活動論) 訪問看護論実習 看護課題研究 統合看護学実習 公衆衛生看護活動論Ⅳ(学校保健･産業保健･健康危機管理) 公衆衛生看護学実習
専	准教授	梶原 江美 ＜平成29年4月＞	看護学概論 基礎看護技術論演習 日常生活援助論演習 ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ演習Ⅰ 基礎看護学実習 ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ演習Ⅱ 治療援助論演習 看護過程論 well-being care 看護過程実習 well-being care統合 看護課題研究 統合看護学実習
専	講師	倉成 由美 ＜平成30年4月＞	基礎看護学実習 精神看護論 看護過程実習 精神看護論演習 精神看護学実習 well-being care統合 統合看護学実習

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	末永 陽子 ＜平成29年4月＞	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ 基礎看護学実習 急性期・回復期看護論Ⅱ 看護過程実習 健康回復支援論演習 急性期・回復期看護学実習 慢性期・終末期看護学実習 well-being care統合 災害看護 統合看護学実習
専	講師	廣渡 加奈子 ＜平成29年4月＞	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ 基礎看護学実習 看護過程実習 小児看護論 小児看護論演習 小児看護学実習 well-being care統合 統合看護学実習
専	講師	宮坂 啓子 ＜平成30年4月＞	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ 基礎看護学実習 高齢者看護論 高齢者看護論演習 看護過程実習 在宅看護論演習 在宅高齢者ケア 高齢者看護学実習 在宅高齢者看護学実習 訪問看護論実習 well-being care統合 統合看護学実習
専	助教	青野 広子 ＜平成29年4月＞	基礎看護学実習 看護過程実習 小児看護論演習 小児看護学実習 well-being care統合 統合看護学実習
専	助教	秋永 和之 ＜平成29年4月＞	基礎看護学実習 急性期・回復期看護論Ⅱ 看護過程実習 健康回復支援論演習 急性期・回復期看護学実習 慢性期・終末期看護学実習 well-being care統合 災害看護 統合看護学実習
専	助教	寒水 章納 ＜平成29年4月＞	基礎看護学実習 地域活動と社会貢献 看護過程実習 well-being care統合 統合看護学実習 公衆衛生看護学実習
専	助教	町島 希美絵 ＜平成29年4月＞	基礎看護学実習 地域活動と社会貢献 高齢者看護論 高齢者看護論演習 看護過程実習 在宅看護論 在宅看護論演習 在宅高齢者ケア 高齢者看護学実習 在宅高齢者看護学実習 well-being care統合 統合看護学実習
専	助教	松尾(奥村) 里香 ＜平成30年4月＞	基礎看護学実習 高齢者看護論 高齢者看護論演習 看護過程実習 在宅看護論 在宅看護論演習 在宅高齢者ケア 高齢者看護学実習 在宅高齢者看護学実習 訪問看護論実習 well-being care統合 統合看護学実習
専	助教	三好 麻紀 ＜平成29年4月＞	看護学概論 基礎看護技術論演習 日常生活援助論演習 ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ演習Ⅰ 基礎看護学実習 地域活動と社会貢献 ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ演習Ⅱ 治療援助論演習 看護過程論 well-being care 看護過程実習 well-being care統合 統合看護学実習

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	末永 陽子 ＜平成29年4月＞	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ 基礎看護学実習 急性期・回復期看護論Ⅱ 看護過程実習 健康回復支援論演習 急性期・回復期看護学実習 慢性期・終末期看護学実習 well-being care統合 災害看護 統合看護学実習
専	講師	中村 加奈子 ＜平成29年4月＞	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ 基礎看護学実習 看護過程実習 小児看護論 小児看護論演習 小児看護学実習 well-being care統合 統合看護学実習
専	講師	宮坂 啓子 ＜平成30年4月＞	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ 基礎看護学実習 高齢者看護論 高齢者看護論演習 看護過程実習 在宅看護論演習 在宅高齢者ケア 高齢者看護学実習 在宅高齢者看護学実習 訪問看護論実習 well-being care統合 統合看護学実習
専	助教	青野 広子 ＜平成29年4月＞	基礎看護学実習 看護過程実習 小児看護論演習 小児看護学実習 well-being care統合 統合看護学実習
専	助教	秋永 和之 ＜平成29年4月＞	基礎看護学実習 急性期・回復期看護論Ⅱ 看護過程実習 健康回復支援論演習 急性期・回復期看護学実習 慢性期・終末期看護学実習 well-being care統合 災害看護 統合看護学実習
専	助教	寒水 章納 ＜平成29年4月＞	基礎看護学実習 地域活動と社会貢献 看護過程実習 well-being care統合 統合看護学実習 公衆衛生看護学実習
専	助教	町島 希美絵 ＜平成29年4月＞	基礎看護学実習 地域活動と社会貢献 高齢者看護論 高齢者看護論演習 看護過程実習 在宅看護論 在宅看護論演習 在宅高齢者ケア 高齢者看護学実習 在宅高齢者看護学実習 well-being care統合 統合看護学実習
専	助教	松尾(奥村) 里香 ＜平成30年4月＞	基礎看護学実習 高齢者看護論 高齢者看護論演習 看護過程実習 在宅看護論 在宅看護論演習 在宅高齢者ケア 高齢者看護学実習 在宅高齢者看護学実習 訪問看護論実習 well-being care統合 統合看護学実習
専	助教	三好 麻紀 ＜平成29年4月＞	看護学概論 基礎看護技術論演習 日常生活援助論演習 ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ演習Ⅰ 基礎看護学実習 地域活動と社会貢献 ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ演習Ⅱ 治療援助論演習 看護過程論 well-being care 看護過程実習 well-being care統合 統合看護学実習

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	末永 陽子 ＜平成29年4月＞	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ 基礎看護学実習 急性期・回復期看護論Ⅱ 看護過程実習 健康回復支援論演習 急性期・回復期看護学実習 慢性期・終末期看護学実習 well-being care統合 災害看護 統合看護学実習
専	講師	中村 加奈子 ＜平成29年4月＞	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ 基礎看護学実習 看護過程実習 小児看護論 小児看護論演習 小児看護学実習 well-being care統合 統合看護学実習
専	講師	宮坂 啓子 ＜平成30年4月＞	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ 基礎看護学実習 高齢者看護論 高齢者看護論演習 看護過程実習 在宅看護論演習 在宅高齢者ケア 高齢者看護学実習 在宅高齢者看護学実習 訪問看護論実習 well-being care統合 統合看護学実習
専	助教	青野 広子 ＜平成29年4月＞	基礎看護学実習 看護過程実習 小児看護論演習 小児看護学実習 well-being care統合 統合看護学実習
専	助教	秋永 和之 ＜平成29年4月＞	基礎看護学実習 急性期・回復期看護論Ⅱ 看護過程実習 健康回復支援論演習 急性期・回復期看護学実習 慢性期・終末期看護学実習 well-being care統合 災害看護 統合看護学実習
専	助教	寒水 章納 ＜平成29年4月＞	基礎看護学実習 地域活動と社会貢献 看護過程実習 well-being care統合 統合看護学実習 公衆衛生看護学実習
専	講師	町島 希美絵 ＜平成29年4月＞	基礎看護学実習 地域活動と社会貢献 高齢者看護論 高齢者看護論演習 看護過程実習 在宅看護論 在宅看護論演習 在宅高齢者ケア 高齢者看護学実習 在宅高齢者看護学実習 well-being care統合 統合看護学実習
専	助教	松尾(奥村) 里香 ＜平成30年4月＞	基礎看護学実習 高齢者看護論 高齢者看護論演習 看護過程実習 在宅看護論 在宅看護論演習 在宅高齢者ケア 高齢者看護学実習 在宅高齢者看護学実習 訪問看護論実習 well-being care統合 統合看護学実習
専	講師	三好 麻紀 ＜平成29年4月＞	看護学概論 基礎看護技術論演習 日常生活援助論演習 ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ演習Ⅰ 基礎看護学実習 地域活動と社会貢献 ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ演習Ⅱ 治療援助論演習 看護過程論 well-being care 看護過程実習 well-being care統合 統合看護学実習

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	末永 陽子 ＜平成29年4月＞	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ 基礎看護学実習 急性期・回復期看護論Ⅱ 看護過程実習 健康回復支援論演習 急性期・回復期看護学実習 慢性期・終末期看護学実習 well-being care統合 災害看護 統合看護学実習
専	講師	中村 加奈子 ＜平成29年4月＞	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ 基礎看護学実習 看護過程実習 小児看護論 小児看護論演習 小児看護学実習 well-being care統合 統合看護学実習
専	講師	宮坂 啓子 ＜平成30年4月＞	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ 基礎看護学実習 高齢者看護論 高齢者看護論演習 看護過程実習 在宅看護論演習 在宅高齢者ケア 高齢者看護学実習 在宅高齢者看護学実習 訪問看護論実習 well-being care統合 統合看護学実習
専	助教	青野 広子 ＜平成29年4月＞	基礎看護学実習 看護過程実習 小児看護論演習 小児看護学実習 well-being care統合 統合看護学実習
専	助教	秋永 和之 ＜平成29年4月＞	基礎看護学実習 急性期・回復期看護論Ⅱ 看護過程実習 健康回復支援論演習 急性期・回復期看護学実習 慢性期・終末期看護学実習 well-being care統合 災害看護 統合看護学実習
専	助教	寒水 章納 ＜平成29年4月＞	基礎看護学実習 地域活動と社会貢献 看護過程実習 well-being care統合 統合看護学実習 公衆衛生看護学実習
専	講師	町島 希美絵 ＜平成29年4月＞	基礎看護学実習 地域活動と社会貢献 高齢者看護論 高齢者看護論演習 看護過程実習 在宅看護論 在宅看護論演習 在宅高齢者ケア 高齢者看護学実習 在宅高齢者看護学実習 well-being care統合 統合看護学実習
専	助教	松尾(奥村) 里香 ＜平成30年4月＞	基礎看護学実習 高齢者看護論 高齢者看護論演習 看護過程実習 在宅看護論 在宅看護論演習 在宅高齢者ケア 高齢者看護学実習 在宅高齢者看護学実習 訪問看護論実習 well-being care統合 統合看護学実習
専	講師	三好 麻紀 ＜平成29年4月＞	看護学概論 基礎看護技術論演習 日常生活援助論演習 ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ演習Ⅰ 基礎看護学実習 地域活動と社会貢献 ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ演習Ⅱ 治療援助論演習 看護過程論 well-being care 看護過程実習 well-being care統合 統合看護学実習

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	助教	門司 真由美 ＜平成29年4月＞	看護学概論 基礎看護技術論演習 日常生活援助論演習 ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ演習Ⅰ 基礎看護学実習 ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ演習Ⅱ 治療援助論演習 看護過程論 well-being care 看護過程実習 well-being care統合 統合看護学実習
専	助教	吉田 理恵 ＜平成29年4月＞	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ 基礎看護学実習 看護過程実習 健康回復支援論演習 急性期・回復期看護学実習 慢性期・終末期看護学実習 口腔機能援助論 well-being care統合 統合看護学実習
兼任	講師	荒木　正見 ＜平成29年9月＞	他者理解と人間関係の形成 個人・集団の心理と行動
兼任	講師	池邉　哲郎 ＜平成30年4月＞	病態疾病論Ⅳ
兼任	講師	石原　礼子 ＜平成29年9月＞	社会経済と医療福祉
兼任	講師	井上　敏生 ＜平成29年9月＞	病態疾病論Ⅱ
兼任	講師	上野　道雄 ＜平成32年4月＞	包括的情報ｼｽﾃﾑ論
兼任	講師	大星　博明 ＜平成29年4月＞	ﾗｲﾌｻｲｸﾙと成長発達 病態疾病論Ⅰ 病態疾病論Ⅱ
兼任	講師	尾崎　正雄 ＜平成29年4月＞	健康と食生活 病態疾病論Ⅳ
兼任	講師	岡村 和彦 ＜平成29年9月＞	病態疾病論Ⅰ
兼任	講師	岡本　富士雄 ＜平成29年4月＞	形態機能学(生理Ⅰ) 形態機能学(生理Ⅱ)
兼任	講師	金光　芳郎 ＜平成30年4月＞	病態疾病論Ⅳ
兼任	講師	川野　庸一 ＜平成30年4月＞	病態疾病論Ⅲ
兼任	講師	寒水　康雄 ＜平成29年9月＞	病態疾病論Ⅰ
兼任	講師	北河　憲雄 ＜平成29年9月＞	形態機能学演習
兼任	講師	小島　　寛 ＜平成29年4月＞	健康と食生活
兼任	講師	児玉　　淳 ＜平成29年4月＞	情報ﾘﾃﾗｼｰ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	助教	門司 真由美 ＜平成29年4月＞	看護学概論 基礎看護技術論演習 日常生活援助論演習 ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ演習Ⅰ 基礎看護学実習 ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ演習Ⅱ 治療援助論演習 看護過程論 well-being care 看護過程実習 well-being care統合 統合看護学実習
専	助教	吉田 理恵 ＜平成29年4月＞	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ 基礎看護学実習 看護過程実習 健康回復支援論演習 急性期・回復期看護学実習 慢性期・終末期看護学実習 口腔機能援助論 well-being care統合 統合看護学実習
兼任	講師	荒木　正見 ＜平成29年9月＞	他者理解と人間関係の形成 個人・集団の心理と行動
兼任	講師	池邉　哲郎 ＜平成30年4月＞	病態疾病論Ⅳ
兼任	講師	石原　礼子 ＜平成29年9月＞	社会経済と医療福祉
兼任	講師	井上　敏生 ＜平成29年9月＞	病態疾病論Ⅱ
兼任	講師	上野　道雄 ＜平成32年4月＞	包括的情報ｼｽﾃﾑ論
兼任	講師	大星　博明 ＜平成29年4月＞	ﾗｲﾌｻｲｸﾙと成長発達 病態疾病論Ⅰ 病態疾病論Ⅱ
兼任	講師	尾崎　正雄 ＜平成29年4月＞	健康と食生活 病態疾病論Ⅳ
兼任	講師	岡村 和彦 ＜平成29年9月＞	病態疾病論Ⅰ
兼任	講師	岡本　富士雄 ＜平成29年4月＞	形態機能学(生理Ⅰ) 形態機能学(生理Ⅱ)
兼任	講師	金光　芳郎 ＜平成30年4月＞	病態疾病論Ⅳ
兼任	講師	川野　庸一 ＜平成30年4月＞	病態疾病論Ⅲ
兼任	講師	寒水　康雄 ＜平成29年9月＞	病態疾病論Ⅰ
兼任	講師	北河　憲雄 ＜平成29年9月＞	形態機能学演習
兼任	講師	小島　　寛 ＜平成29年4月＞	健康と食生活
兼任	講師	児玉　　淳 ＜平成29年4月＞	情報ﾘﾃﾗｼｰ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	**講師**	門司 真由美 ＜平成29年4月＞	看護学概論 基礎看護技術論演習 日常生活援助論演習 ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ演習Ⅰ 基礎看護学実習 ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ演習Ⅱ 治療援助論演習 看護過程論 well-being care 看護過程実習 well-being care統合 統合看護学実習
専	助教	吉田 理恵 ＜平成29年4月＞	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ 基礎看護学実習 看護過程実習 健康回復支援論演習 急性期・回復期看護学実習 慢性期・終末期看護学実習 口腔機能援助論 well-being care統合 統合看護学実習
兼任	講師	荒木　正見 ＜平成29年9月＞	他者理解と人間関係の形成 個人・集団の心理と行動
兼任	講師	池邉　哲郎 ＜平成30年4月＞	病態疾病論Ⅳ
兼任	講師	**堀崎　嘉子** **＜平成30年9月＞**	社会経済と医療福祉
兼任	講師	井上　敏生 ＜平成29年9月＞	病態疾病論Ⅱ
兼任	講師	上野　道雄 ＜平成32年4月＞	包括的情報ｼｽﾃﾑ論
兼任	講師	大星　博明 ＜平成29年4月＞	ﾗｲﾌｻｲｸﾙと成長発達 病態疾病論Ⅰ 病態疾病論Ⅱ
兼任	講師	尾崎　正雄 ＜平成29年4月＞	健康と食生活 病態疾病論Ⅳ
兼任	講師	岡村 和彦 ＜平成29年9月＞	病態疾病論Ⅰ
兼任	講師	岡本　富士雄 ＜平成29年4月＞	形態機能学(生理Ⅰ) 形態機能学(生理Ⅱ)
兼任	講師	金光　芳郎 ＜平成30年4月＞	病態疾病論Ⅳ
兼任	講師	川野　庸一 ＜平成30年4月＞	病態疾病論Ⅲ
兼任	講師	寒水　康雄 ＜平成29年9月＞	病態疾病論Ⅰ
兼任	講師	北河　憲雄 ＜平成29年9月＞	形態機能学演習
兼任	講師	小島　　寛 ＜平成29年4月＞	健康と食生活
兼任	講師	児玉　　淳 ＜平成29年4月＞	情報ﾘﾃﾗｼｰ **形態機能学(解剖Ⅰ)** **形態機能学演習**

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	**講師**	門司 真由美 ＜平成29年4月＞	看護学概論 基礎看護技術論演習 日常生活援助論演習 ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ演習Ⅰ 基礎看護学実習 ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ演習Ⅱ 治療援助論演習 看護過程論 well-being care 看護過程実習 well-being care統合 統合看護学実習
専	助教	吉田 理恵 ＜平成29年4月＞	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠ 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ 基礎看護学実習 看護過程実習 健康回復支援論演習 急性期・回復期看護学実習 慢性期・終末期看護学実習 口腔機能援助論 well-being care統合 統合看護学実習
兼任	講師	荒木　正見 ＜平成29年9月＞	他者理解と人間関係の形成 個人・集団の心理と行動
兼任	講師	池邉　哲郎 ＜平成30年4月＞	病態疾病論Ⅳ
兼任	講師	**堀崎　嘉子** **＜平成30年9月＞**	社会経済と医療福祉
兼任	講師	井上　敏生 ＜平成29年9月＞	病態疾病論Ⅱ
兼任	講師	上野　道雄 ＜令和2年4月＞	包括的情報ｼｽﾃﾑ論
兼任	講師	大星　博明 ＜平成29年4月＞	病態疾病論Ⅰ 病態疾病論Ⅱ
兼任	講師	尾崎　正雄 ＜平成29年4月＞	健康と食生活 病態疾病論Ⅳ
兼任	講師	岡村 和彦 ＜平成29年9月＞	病態疾病論Ⅰ
兼任	講師	岡本　富士雄 ＜平成29年4月＞	形態機能学(生理Ⅰ) 形態機能学(生理Ⅱ)
兼任	講師	金光　芳郎 ＜平成30年4月＞	病態疾病論Ⅳ
兼任	講師	川野　庸一 ＜平成30年4月＞	病態疾病論Ⅲ
兼任	講師	寒水　康雄 ＜平成29年9月＞	病態疾病論Ⅰ
兼任	講師	北河　憲雄 ＜平成29年9月＞	形態機能学演習
兼任	講師	小島　　寛 ＜平成29年4月＞	健康と食生活
兼任	講師	児玉　　淳 ＜平成29年4月＞	**形態機能学(解剖Ⅰ)** **形態機能学(解剖Ⅱ)** **形態機能学演習**
兼任	講師	**内田　竜二** **＜平成31年4月＞**	**情報ﾘﾃﾗｼｰ**

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	酒井　健太朗 ＜平成29年4月＞	日本語表現法（伝達表現） 論理的思考法
兼任	講師	坂上　竜資 ＜平成30年4月＞	病態疾病論Ⅳ
兼任	講師	佐藤　敦子 ＜平成29年9月＞	形態機能学(解剖Ⅱ)
兼任	講師	佐藤　博信 ＜平成30年4月＞	病態疾病論Ⅳ
兼任	講師	沢　　禎彦 ＜平成29年9月＞	形態機能学演習
兼任	講師	篠原　徹雄 ＜平成29年9月＞	病態疾病論Ⅱ 病態疾病論Ⅲ
兼任	講師	高瀬　文広 ＜平成29年4月＞	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅢ
兼任	講師	田北　雅裕 ＜平成29年4月＞	福祉とﾃﾞｻﾞｲﾝ まちづくり概論
兼任	講師	知念　正剛 ＜平成29年4月＞	情報ﾘﾃﾗｼｰ 看護教育のための物理学
兼任	講師	長　　環 ＜平成30年4月＞	感染免疫学
兼任	講師	寺岡　佐和 ＜平成32年4月＞	公衆衛生看護活動論Ⅳ(学校保健･産業保健・健康危機管理)
兼任	講師	徳本　正憲 ＜平成29年9月＞	病態疾病論Ⅱ
兼任	講師	内藤　　徹 ＜平成29年4月＞	健康と食生活 病態疾病論Ⅳ 口腔健康科学論 口腔機能援助論

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	酒井　健太朗 ＜平成29年4月＞	日本語表現法（伝達表現） 論理的思考法
兼任	講師	坂上　竜資 ＜平成30年4月＞	病態疾病論Ⅳ
兼任	講師	佐藤　敦子 ＜平成29年9月＞	形態機能学(解剖Ⅱ)
兼任	講師	佐藤　博信 ＜平成30年4月＞	病態疾病論Ⅳ
兼任	講師	福井　哲一朗 ＜平成29年9月＞	形態機能学演習
兼任	講師	大谷　崇仁 ＜平成29年9月＞	形態機能学演習
兼任	講師	篠原　徹雄 ＜平成29年9月＞	病態疾病論Ⅱ 病態疾病論Ⅲ
兼任	講師	池田　豊子 ＜平成30年4月＞	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅢ
兼任	講師	田北　雅裕 ＜平成29年4月＞	福祉とﾃﾞｻﾞｲﾝ まちづくり概論
兼任	講師	井上　勇介 ＜平成29年4月＞	情報ﾘﾃﾗｼｰ
兼任	講師	都留　寛治 ＜平成30年4月＞	看護教育のための物理学
兼任	講師	長　　環 ＜平成30年4月＞	感染免疫学
兼任	講師	寺岡　佐和 ＜平成32年4月＞	公衆衛生看護活動論Ⅳ(学校保健･産業保健・健康危機管理)
兼任	講師	徳本　正憲 ＜平成29年9月＞	病態疾病論Ⅱ
兼任	講師	内藤　　徹 ＜平成29年4月＞	健康と食生活 病態疾病論Ⅳ 口腔健康科学論 口腔機能援助論

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	坂上　竜資 ＜平成30年4月＞	病態疾病論Ⅳ
兼任	講師	佐藤　博信 ＜平成30年4月＞	病態疾病論Ⅳ
兼任	講師	福井　哲一朗 ＜平成29年9月＞	形態機能学演習
兼任	講師	大谷　崇仁 ＜平成29年9月＞	形態機能学演習
兼任	講師	池田　哲夫 ＜平成31年9月＞	病態疾病論Ⅱ 病態疾病論Ⅲ
兼任	講師	池田　豊子 ＜平成30年4月＞	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ
兼任	講師	ｹｲﾝﾌﾞﾗｲｱﾝ・ﾄｰﾏｽ （66） ＜平成31年4月＞	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅢ
兼任	講師	井上　勇介 ＜平成29年4月＞	情報ﾘﾃﾗｼｰ
兼任	講師	都留　寛治 ＜平成30年4月＞	看護教育のための物理学
兼任	講師	寺岡　佐和 ＜令和2年4月＞	公衆衛生看護活動論Ⅳ(学校保健･産業保健・健康危機管理)

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	中島　與志行 ＜平成29年4月＞	ﾗｲﾌｻｲｸﾙと成長発達 病態疾病論Ⅳ
兼任	講師	中園　栄里 ＜平成29年4月＞	健康と食生活
兼任	講師	永嶋　哲也 ＜平成29年4月＞	自己管理と社会規範 自己形成と職業倫理
兼任	講師	橋口　一成 ＜平成30年4月＞	栄養・代謝機能（生化学）
兼任	講師	橋本　修一 ＜平成29年9月＞	病態疾病論Ⅰ
兼任	講師	畠山　雄次 ＜平成29年9月＞	形態機能学演習
兼任	講師	埴岡　隆 ＜平成30年9月＞	疫学 保健統計
兼任	講師	早川　浩 ＜平成29年4月＞	看護教育のための生物学・化学
兼任	講師	林　道夫 ＜平成30年4月＞	栄養・代謝機能（生化学）
兼任	講師	桧垣　伸次 ＜平成30年4月＞	社会制度と法律
兼任	講師	廣藤　卓雄 ＜平成32年4月＞	災害看護
兼任	講師	藤兼　亮輔 ＜平成29年4月＞	看護教育のための生物学・化学
兼任	講師	藤田　恭之 ＜平成30年4月＞	病態疾病論Ⅲ
兼任	講師	古村　南夫 ＜平成30年4月＞	病態疾病論Ⅲ
兼任	講師	堀部　晴美 ＜平成30年9月＞	口腔健康科学論
兼任	講師	町田　弘幸 ＜平成29年4月＞	健康科学 ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ
兼任	講師	松尾　忠行 ＜平成30年4月＞	公衆衛生学 保健統計
兼任	講師	壬生　正博 ＜平成29年4月＞	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅢ 民族・宗教と世界の歴史
兼任	講師	八尋　純子 ＜平成29年4月＞	形態機能学（解剖Ⅰ）
兼任	講師	山口　優実 ＜平成30年9月＞	口腔健康科学論

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	中島　與志行 ＜平成29年4月＞	ﾗｲﾌｻｲｸﾙと成長発達 病態疾病論Ⅳ
兼任	講師	中園　栄里 ＜平成29年4月＞	健康と食生活
兼任	講師	永嶋　哲也 ＜平成29年4月＞	自己管理と社会規範 自己形成と職業倫理
兼任	講師	橋口　一成 ＜平成30年4月＞	栄養・代謝機能（生化学）
兼任	講師	橋本　修一 ＜平成29年9月＞	病態疾病論Ⅰ
兼任	講師	畠山　雄次 ＜平成29年9月＞	形態機能学演習
兼任	講師	埴岡　隆 ＜平成30年9月＞	疫学 保健統計
兼任	講師	早川　浩 ＜平成29年4月＞	看護教育のための生物学・化学
兼任	講師	林　道夫 ＜平成30年4月＞	栄養・代謝機能（生化学）
兼任	講師	桧垣　伸次 ＜平成30年4月＞	社会制度と法律
兼任	講師	廣藤　卓雄 ＜平成32年4月＞	災害看護
兼任	講師	藤兼　亮輔 ＜平成29年4月＞	看護教育のための生物学・化学
兼任	講師	藤田　恭之 ＜平成30年4月＞	病態疾病論Ⅲ
兼任	講師	古村　南夫 ＜平成30年4月＞	病態疾病論Ⅲ
兼任	講師	堀部　晴美 ＜平成30年9月＞	口腔健康科学論
兼任	講師	町田　弘幸 ＜平成29年4月＞	健康科学 ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ
兼任	講師	松尾　忠行 ＜平成30年4月＞	公衆衛生学 保健統計
兼任	講師	壬生　正博 ＜平成29年4月＞	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅢ 民族・宗教と世界の歴史
兼任	講師	八尋　純子 ＜平成29年4月＞	形態機能学（解剖Ⅰ）
兼任	講師	山口　優実 ＜平成30年9月＞	口腔健康科学論

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	中島　與志行 ＜平成29年4月＞	ﾗｲﾌｻｲｸﾙと成長発達 病態疾病論Ⅳ
兼任	講師	中園　栄里 ＜平成29年4月＞	健康と食生活
兼任	講師	永嶋　哲也 ＜平成29年4月＞	自己管理と社会規範 自己形成と職業倫理
兼任	講師	橋口　一成 ＜平成30年4月＞	栄養・代謝機能（生化学）
兼任	講師	橋本　修一 ＜平成29年9月＞	病態疾病論Ⅰ
兼任	講師	畠山　雄次 ＜平成29年9月＞	形態機能学演習 **形態機能学（解剖Ⅰ）**
兼任	講師	埴岡　隆 ＜平成30年9月＞	疫学 保健統計
兼任	**講師**	**石井　健士** **＜平成30年4月＞**	**看護教育のための生物学・化学**
兼任	講師	林　道夫 ＜平成30年4月＞	栄養・代謝機能（生化学）
兼任	講師	桧垣　伸次 ＜平成30年4月＞	社会制度と法律
兼任	講師	廣藤　卓雄 ＜平成32年4月＞	災害看護
兼任	講師	藤兼　亮輔 ＜平成29年4月＞	看護教育のための生物学・化学
兼任	**講師**	**日高　庸博** **＜平成30年4月＞**	**病態疾病論Ⅲ**
兼任	講師	古村　南夫 ＜平成30年4月＞	病態疾病論Ⅲ
兼任	講師	堀部　晴美 ＜平成30年9月＞	口腔健康科学論
兼任	講師	町田　弘幸 ＜平成29年4月＞	健康科学 ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ
兼任	講師	松尾　忠行 ＜平成30年4月＞	公衆衛生学 保健統計
兼任	講師	壬生　正博 ＜平成29年4月＞	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅢ 民族・宗教と世界の歴史

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	中島　與志行 ＜平成29年4月＞	ﾗｲﾌｻｲｸﾙと成長発達 病態疾病論Ⅳ
兼任	講師	中園　栄里 ＜平成29年4月＞	健康と食生活
兼任	講師	永嶋　哲也 ＜平成29年4月＞	自己管理と社会規範 自己形成と職業倫理
兼任	講師	橋口　一成 ＜平成30年4月＞	栄養・代謝機能（生化学）
兼任	講師	橋本　修一 ＜平成29年9月＞	病態疾病論Ⅰ
兼任	講師	畠山　雄次 ＜平成29年9月＞	形態機能学演習 **形態機能学（解剖Ⅰ）** **形態機能学（解剖Ⅱ）**
兼任	講師	埴岡　隆 ＜平成30年9月＞	疫学
兼任	**講師**	**石井　健士** **＜平成30年4月＞**	**看護教育のための生物学・化学**
兼任	講師	林　道夫 ＜平成30年4月＞	栄養・代謝機能（生化学）
兼任	講師	桧垣　伸次 ＜平成30年4月＞	社会制度と法律
兼任	講師	廣藤　卓雄 ＜令和2年4月＞	災害看護
兼任	講師	藤兼　亮輔 ＜平成29年4月＞	看護教育のための生物学・化学
兼任	**講師**	**日高　庸博** **＜平成30年4月＞**	**病態疾病論Ⅲ**
兼任	講師	古村　南夫 ＜平成30年4月＞	病態疾病論Ⅲ
兼任	講師	堀部　晴美 ＜平成30年9月＞	口腔健康科学論
兼任	講師	町田　弘幸 ＜平成29年4月＞	健康科学 ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ
兼任	講師	松尾　忠行 ＜平成30年4月＞	公衆衛生学 保健統計
兼任	講師	壬生　正博 ＜平成29年4月＞	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅢ 民族・宗教と世界の歴史

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	山野　貴史 ＜平成29年4月＞	健康と食生活 病態疾病論Ⅳ
兼任	講師	湯浅　賢治 ＜平成30年4月＞	病態疾病論Ⅳ
兼任	講師	吉村 久美子 ＜平成30年9月＞	口腔健康科学論
兼任	講師	渡辺　　猛 ＜平成30年9月＞	保健医療福祉行政論 保健統計

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	山野　貴史 ＜平成29年4月＞	健康と食生活 病態疾病論Ⅳ
兼任	講師	湯浅　賢治 ＜平成30年4月＞	病態疾病論Ⅳ
兼任	講師	吉村 久美子 ＜平成30年9月＞	口腔健康科学論
兼任	講師	渡辺　　猛 ＜平成30年9月＞	保健医療福祉行政論 保健統計

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	**講師**	**鵜木　あゆみ** **＜平成30年9月＞**	**口腔健康科学論**
兼任	講師	山野　貴史 ＜平成29年4月＞	健康と食生活 病態疾病論Ⅳ
兼任	講師	湯浅　賢治 ＜平成30年4月＞	病態疾病論Ⅳ
兼任	講師	吉村 久美子 ＜平成30年9月＞	口腔健康科学論
兼任	講師	渡辺　　猛 ＜平成30年9月＞	保健医療福祉行政論 保健統計

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	**講師**	**鵜木　あゆみ** **＜平成30年9月＞**	**口腔健康科学論**
兼任	講師	山野　貴史 ＜平成29年4月＞	健康と食生活 病態疾病論Ⅳ
兼任	講師	湯浅　賢治 ＜平成30年4月＞	病態疾病論Ⅳ
兼任	講師	吉村 久美子 ＜平成30年9月＞	口腔健康科学論
兼任	講師	渡辺　　猛 ＜平成30年9月＞	保健医療福祉行政論 保健統計

（注）・　報告年度の５月１日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
・　認可申請書又は設置届出書の様式第３号（その２の１）に準じて作成してください。
・「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て（兼任，兼担教員を含む。）を黒字で記入してください。
その上で，**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
・　各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
・　年齢は，**それぞれの年度の５月１日時点の満年齢**を記入してください。
・　専任（専門職大学等は専、実専、実（研）、実み）、兼担、兼任の順に記入してください。
・　不要な年度（平成２９年度開設であれば平成２８年度）の表は適宜削除し、詰めてください。

（１）ー②担当教員表に関する変更内容

【平成２９年度】

・廣渡講師結婚のため、姓の変更。（廣渡→中村）
・沢兼任講師就任辞退により、「形態機能学演習」について稲井兼任講師に変更及び大谷兼任講師を追加。
・知念兼任講師就任辞退により、「情報ﾘﾃﾗｼｰ」について井上兼任講師、「看護教育のための物理学」について松家兼任講師に変更。

【平成３０年度】

・平成３０年１月ＡＣ教員審査の結果、６名の教員が職位適格の判定を受け、平成３０年４月１日より青木准教授→教授、中島准教授→教授、梶原講師→准教授、町島助教→講師、三好助教→講師、門司助教→講師へ昇任。「平成３０年１月教員審査済」
・「成人看護学概論」の科目について、村田兼任講師は平成３０年度から専任教授就任のため、兼任から専任へ変更。
・早川兼任講師就任辞退により、石井兼任講師に変更。
・松家兼任講師就任辞退により、都留兼任講師に変更。
・髙瀬兼任講師就任辞退により、池田兼任講師に変更。
・石原兼任講師就任辞退により、塚崎兼任講師に変更。
・藤田兼任講師就任辞退により、日高兼任講師に変更。
・山口兼任講師就任辞退により、鵜木兼任講師に変更。
・八尋兼任講師就任辞退により、畠山兼任講師及び児玉兼任講師に変更。（科目追加）
・稲井兼任講師就任辞退により、児玉兼任講師に変更。（科目追加）

【令和元年度】

・青木教授に、授業科目「well-being care」追加。平成３１年１月ＡＣ教員審査済。
・岡田教授に、授業科目「ﾗｲﾌｻｲｸﾙと成長発達」の一部、「病態疾病論Ⅱ」の一部追加。平成３１年１月ＡＣ教員審査済。
・晴佐久准教授に、授業科目「公衆衛生学」、「疫学」、「保健統計」追加。平成３１年１月ＡＣ教員審査済。
・「高齢者看護学概論」について、窪田教授より宮園教授に変更。平成３１年１月ＡＣ教員審査済。
・「形態機能学(解剖学Ⅱ)」について、佐藤兼任講師より、畠山兼任講師及び児玉兼任講師に変更。（科目追加）
・「情報リテラシー」について、児玉兼任講師の辞退により、内田兼任講師へ変更。
・酒井兼任講師就任辞退により、満井兼任講師へ変更。
・篠原兼任講師就任辞退により、池田哲夫兼任講師に変更。
・「英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅢ」について、池田豊子兼任講師の辞退により、ｸｲﾝﾌﾟﾗｲｱﾝ･ﾄｰﾏｽ兼任講師へ変更。

（注）・　変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
・　**認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合**は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
・　「専任教員採用等変更書（ＡＣ）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「○年○月教員審査済」と記入してください。
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
・　不要な年度（平成２９年度開設であれば平成２８年度）の表は適宜削除してください。

（２） 専任教員数等

（２）－①　設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
12 名	6 名

（注）・　大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二条別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

（２）－②　専任教員数【大学】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教　授	准教授	講　師	助　教	計（Ａ）	教　授	准教授	講　師	助　教	計（Ｂ）
11	6	5	8	30	13	5	7	5	30
(9)	(4)	(3)	(7)	(23)					
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教　授	准教授	講　師	助　教	計（Ｃ）	教　授	准教授	講　師	助　教	計（Ｄ）
13	5	7	5	30	13	5	7	5	30
[　2]	[△1]	[　2]	[△3]	[　0]	[　2]	[△1]	[　2]	[△3]	[　0]

（注）・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（　）内に開設時の状況を記入してください。
・「現在（報告時）の状況」には、報告年度の５月１日の教員数（実人数）を記入してください。
・**「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、［　］内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：１名減の場合：△１）
・「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、［　］内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：１名減の場合：△１）

（２）－③　年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記（Ｂ））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（Ｃ））の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	3 名	5 名

（注）・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の５月１日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
［　］内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：１名減の場合：△１）

（２）－④　設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{30}{30} = 100\ \%$$

（注）・　小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。

（２）－⑤　現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{3}{30} = 10\ \%$$

（注）・　小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。

（３） 専任教員辞任等の理由

（３）－① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番　号	職　位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
	該当なし	該当なし					該当なし

合計（D）			後任補充状況の集計（E）								
就任を辞退した教員数	担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）			②の合計数（b）			③の合計数（c）	
該当なし　　人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0 科目
	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0 科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0 科目
	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0 科目

（注）・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。
就任した後に辞任した教員は、以下「（３）－②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、
「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（　）書きで報告年度を記入してください。
・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、
「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

（３）－② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番　号	職　位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
	該当なし	該当なし					該当なし

合計（F）			後任補充状況の集計（G）								
辞任した教員数	担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）			②の合計数（b）			③の合計数（c）	
該当なし　　人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0 科目
	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0 科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0 科目
	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0 科目

（注）・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**についてに記入してください。
・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」
に辞任理由等および（　）書きで報告年度を記入してください。
・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、
「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

（３）－③ 上記（３）－①　・　（３）－② の合計

合計（D）＋（F）				後任補充状況の集計（E）＋（G）							
辞任等した教員数	担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）			②の合計数（b）			③の合計数（c）	
該当なし　　人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0 科目
	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0 科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0 科目
	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0 科目

（３）－④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-③合計(D)+(F)}{(2)-②設置時の計画(A)} = \frac{0}{0} = \boxed{0}\ \%$$

（注）・ 小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。

（３）－⑤　定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番　号	職　位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
	該当なし	該当なし				該当なし

合計				後任補充状況の集計							
辞任した教員数	担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）			②の合計数（b）			③の合計数（c）		
該当なし　　人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

（注）・　**定年により退職した全ての専任教員**についてに記入してください。
・　昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（　）書きで報告年度を記入してください。
・　また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

（４）専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

（注）・　上記（３）の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

６　附帯事項等に対する履行状況等

区　　分	附　帯　事　項　等		履　行　状　況		今後の の実施計画
認　可　時 （２９年）	・設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、開設時から４年制大学にふさわしい教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。	留意事項	設置の趣旨・目的を教員就任予定者が共通理解ができるように、開学準備説明会を３回開催した。開学後も、教員オリエンテーションや助手、事務職員も含めた全体の福岡看護大学スタッフ会議を開催し、学長が説明を行い理解を深めた。 また、教育研究活動水準の向上のため、開学前より「看護学・口腔医学連携研究委員会」を設置し、福岡歯科大学及び福岡医療短期大学の教員と共同で研究を推進している。 また、申請資格を有する全員に科学研究費申請を義務付けている。（29）	履行済	
認　可　時 （２９年）	・教育の目的である「口腔を起点とした全身の健康支援が可能な看護実践能力の育成」が明確になるようシラバスを改めたとのことだが、実習科目には当該内容を追加したにもかかわらず、前段階の専門基礎分野の科目や専門分野の基礎看護学の講義科目及び演習科目には追記されていない。また、当該内容を追加したシラバスを見ると、例えば「公衆衛生看護学実習」では授業内容の「健康教育」部分では内容を追加されているにもかかわらず、その前段階の「健康相談」部分では追加されていない。このことから、学生が当該目的を理解した上で段階的な学修が可能であるか不明確であるため、シラバスについては再度見直すこと。なお、「専門基礎分野」の科目において、近年、口腔の細菌が慢性疾患の原因となることが明らかになってきたことも学修させることにより、「健康支援看護学」に位置付けられた科目における実践によりつながるものとなると思われるので、授業内容の充実に努めること。	留意事項	「口腔を起点とした全身の健康支援が可能な看護実践能力の育成」のために、教育課程の見直しを行い、教育の順序性と教育内容の適切性について検討し、不足した内容をシラバスに追記している。基礎分野の「健康と食生活」に健康的な食生活に必要な口腔の健康や摂食・嚥下機能との関連性を理解できる教育内容を追記、専門基礎分野の「形態機能学（解剖Ⅰ）」に口腔の構造と機能と栄養の消化・吸収が理解できる教育内容を追記した。さらに、専門分野の「日常生活援助論演習」に演習項目として口腔内を清潔にする援助方法を追記、講義に嚥下のスクリーニング、栄養状態アセスメントを追記した。 「公衆衛生看護学実習」については、教育目標に到達するように、見直し中である。また、歯周病が及ぼす全身の健康への影響については、専門基礎科目、専門科目の「健康支援看護学」に教育内容を追加する方向で調整中である。（29）	履行済	

設置計画履行状況 調査時 （３０年）	・同一設置者が設置する既設学部等（福岡医療短期大学保健福祉学科）の定員未充足率の平均が０．７倍未満となっていることから，学生確保に努めるとともに，入学定員の見直しについて検討すること。	改善意見	・平成30年度入学試験においても、昨年度に引き続き入学者を対象とした授業料減免制度や学生納付金の4期分納制度を継続運用するとともに、福岡県職業訓練制度や修学資金制度の活用に関する広報活動を行った。また、今年度は教材費の大幅な削減を実施し、学生確保に努めた結果、職業訓練生については、定員８名に対し８名が入学したが、本学実施の入学試験での入学者は４名にとどまり、全体では定員40名に対し12名の入学者であった。（30） ・令和２年度より福岡医療短期大学保健福祉学科の募集停止。（31）	履行済	・平成31年度入学試験においては、多様な学生の受け入れに向けて、社会人ＡＯ入学試験として社会人定員枠を設置し、保健福祉学科の長期履修学生制度を導入した。また、地域介護施設との連携強化を図り、インターンシップの充実、学生の就学環境の改善に向けた取組みを継続して行い、更に、入学者増加につながる取組みの検討を行っていく。(30)

（注）・　「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）　と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

・　「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。

・　「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。

・　該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。

・　「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

７　その他全般的事項

＜看護学部　看護学科＞

（１） 設置計画変更事項等

設　置　時　の　計　画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

（注）・　１～６の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）
及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

（２） 教員の資質の維持向上の方策（ＦＤ・ＳＤ活動含む）

①　実施体制

ａ　委員会の設置状況

福岡看護大学ＦＤ委員会

ｂ　委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

年数回程度開催し、学部長、学生部長、部門長、学長が指名する教員からなり、原則委員全員が毎回出席している。（平成30年度　6回開催）

ｃ　委員会の審議事項等

（１）ＦＤ研修会計画について

（２）学生による授業評価について

（３）ＦＤ実施前後の評価について

（４）学生実態調査について

②　実施状況

ａ　実施内容

・　新採用教員研修会
・　看護師国家試験対策研修
・　管理職等を対象とした 「ハラスメント研修会」
・　科研費取得を目指した申請書の書き方のコツ
・　現在の授業展開・教材活用について
・　臨地実習でのSNS投稿関連問題に対するこれまでの取組と事案の検証・今後の対策について
・　ディプロマポリシーを踏まえて、講義・演習・臨床実習の連動性と実習計画の検討
・　学部教育の全体像を把握し、教育の連動性を考える

ｂ　実施方法

・　授業改善のための学生の授業評価アンケート
・　教員研修会
・　全教職員参加のスタッフ会議及びメールにて研修会等の案内を行い、原則全員参加

c　開催状況（教員の参加状況含む）

・　新採用教員研修会（29年度 4/3、30年度 4/2、31年度　4/1　新採用教員【助手】全員参加）
・　看護師国家試験対策研修　（4/26 36名）
・　管理職等を対象とした 「ハラスメント研修会」〔ｸﾞﾙｰﾌﾟ校ＦＤ委員会共催〕（6/21 22名）
・　科研費取得を目指した申請書の書き方のコツ（7/9）〔ｸﾞﾙｰﾌﾟ校ＦＤ委員会共催〕（本学 39名）
・　現在の授業展開・教材活用の報告と検討（11/29 38名）
・　臨地実習でのSNS投稿関連問題に対するこれまでの取組と事案の検証・今後の対策について（12/27　39名）
・　ディプロマポリシーを踏まえて、講義・演習・臨床実習の連動性と実習計画の検討（2/13　38名）

d　実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

・教員のFD研修への出席率は高く、教育スタッフではいずれのFD研修でも90%以上である。
そのため、開学2年目の状況でも、在籍教員の教育の向上・改善に対する意欲は高い状態と考える。
・本学の教育理念の意図・ディプロマポリシーの内容を、より反映する授業へ改善するために、
看護学部で組織的に、演習・実習のシラバス第三者評価体制を構築・実施し、シラバスの改善を図り
そのシラバスにそって授業が進むような体制作りを行った。

＜講義・演習＞

・学習に対する主体的姿勢や意志力・コミュニケーション力などの社会的スキルに不安な学生に対して、
基礎ゼミナールの講義・演習やチューター教員の面接指導を中心に、学士力・社会人基礎力の向上、
授業内容を理解するための支援、自宅学習の方法の改善に対する指導等を行ってきた。
その成果は、学内演習・臨地実習での学生の言動・評価から、コンピテンシー能力や看護の問題解決型思考力
が向上していることを確認している。
・学生による授業評価結果に基づき、リフレクションペーパーの有効的な活用や、国家試験を意識した
授業内容の充実について、これまで同様に継続していく。国家試験対策については、委員会メンバーを
増員し、3学年に対して、学年進行に応じた対策を実施している。
・学生の評価方法として、ディプロマポリシー（DP）と連動させた評価方法、とくに、学内演習や臨地実習評価
方法としてルーブリック評価法について、FD研修を中心に学習して改善を進める予定である。

＜臨地実習＞

・平成30年度と同様に、平成31年度も全臨地実習施設の臨床実習教育の責任者を招き、本学の教育理念に基づく
臨地実習での教育の展開とその教育環境の準備に支援を得られるように「実習協議会」を開催し、
協調的な実習指導体制作りに継続的に取組んでいる。
・本学の理念に基づき、口腔から全身への健康支援を行うために、本学教員の多くが執筆する口腔ケア書籍を
完成させ、それを書籍を基本に、学内演習、臨地実習等で、広く口腔ケアが提供できるように教育する。

③　学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a　実施の有無及び実施時期

・　前期と後期の全開講科目について、最終講義日に実施。

b　教員や学生への公開状況、方法等

・　平成30年度授業評価アンケート集計結果を教員へフィードバックを行い、授業改善報告書を提出してもらう。
・　平成29年度「学生による授業評価」報告書を大学のホームページに掲載した。

（注）・「①ａ　委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（３） 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

（４） 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学は、学則第２条に基づき、教育研究水準の向上に資するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うこととしている。開学と同時に、福岡看護大学自己点検・評価委員会規則を制定し、大学長を委員長としてその他役職教員７名及び事務職員２名の委員をもって委員会を組織した。平成31年5月1日現在まで６回の自己点検評価委員会が開催された。

本学の教育理念は、「一人ひとりの尊厳を保ち、その人らしい最適な暮らし（well-being）支える看護専門職を育成する」点にあり、特徴は「看護の対象者が、その人らしく暮らせるよう、これからの健康社会づくりに向けて、″在宅看護″や″口腔から全身への健康支援″を教授し、チーム医療で活躍できる看護実践能力を身に付けるように支援する」点である。この教育理念と特徴を生かした教育を実現させるために、教員組織、カリキュラム、教育支援関連の各システムが機能し、その趣旨が十分活かされるように、整備を進めてきた。

「教員組織」
大学の教育研究活動、組織の運営は、看護学部の構成員の主体的・組織的・倫理的な取り組みによって成果をあげることができる。本学の教育理念を実現するために、その資質を備えた教員組織の充実が必要となる。本学部は、3部門9分野の組織で構成しており、平成30年度に予定通りに7名の教員が就任し、1年間フルメンバーで学部運営・教育研究を行った。助教以上の教員数は30名だが、開学後から平成31年4月現在まで退職者はなく運営できている。
平成30年度は、本学の理念であるwell-beingに関して、また、口腔医学を取り入れた看護における口腔ケアに関して重点を置き、教育・研究の充実化を目指して全教員が取り組んでいる。全看護領域の演習・臨地実習において、口腔ケアをおろそかにしない看護アセスメントからケアについて教育している。そうした教育実績をもとに、令和2年2月の発刊を目指して、看護大学教員の総力をあげて書籍「看護で教える最新口腔ケア」の執筆を行っている。

「カリキュラムポリシーに基づく教育の実施」
本学は、学士力の基盤となる「基礎分野」、医療関連職種として必要な知識を修得する「専門基礎分野」、看護専門職として必要な基礎的実践能力を修得する「専門分野」の3つの科目区分により教育課程を編成している。特に「専門分野」では、4年間の学修期間を通して、講義から演習、演習から実習へと発展させるための体系的な授業科目を配置している。基礎ゼミナールと少人数制のチューター制度によって、１年次から学士力の向上を目指した教育に努めている。
また、新設大学として開学したため、上級学年が存在せず、就職実績も無い状態である。そのため、キャリア開発支援の教育として１年次から「看護の仕事第1弾～第6弾」の講演を通して、多様な職場で勤務する看護師・保健師のキャリアとキャリア開発について理解するキャリア教育を定期的に実施した。受講学生から「今までイメージできなかった看護の仕事を知ることができて、進路選択に役立った」という評価が得られている。

「施設・設備の整備」
本大学の教育施設としては、福岡看護大学校舎（6,397.09㎡）を中心に行っている。大学開設時から講義室（4室）、間仕切り可能な大実習室（2室）、情報処理実習室（1室）、セミナー室（8室）で教育している。また、メインとなる講義室に天吊りモニター各二台を設置し、学生の映像教材の視認性向上を図った。
情報図書館にはグループ学習室（4室）を備えており、加えて和・英論文のダウンロードが可能な大手データベース、CINAHL（シナール）やメディカルオンライン等の文献データベースの契約を含め、図書・学内設備についても計画通り順調に整備を進めている。

② 自己点検・評価報告書

ａ 公表（予定）時期

・令和元年８月末　公表予定

ｂ 公表方法

・大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

・2022年度に評価機関（大学基準協会）の評価を受けるべく、学内で検討中

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（５） 情報公表に関する事項

○　設置計画履行状況報告書（令和元年度）

ａ　ホームページへの公表予定の有無　（　有　・　無　）

ｂ　公表有の場合の公表（予定）時期　（　令和元年　６月　１日　）

ｂ　公表無の場合の特段の理由　（　　）

（注）・　今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

福岡看護大学ＦＤ委員会規則

（趣旨）

第１条　この規則は、福岡看護大学学則第３条第２項の規定に基づき、ＦＤ委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定める。

（任務）

第２条　委員会は授業内容及び方法等の改善を図るため次の事項を審議する。

（１）ＦＤ推進のための企画及び実施に関する事項

（２）ＦＤに関する報告書等の作成に関する事項

（３）その他、ＦＤの推進に関する事項

（組織）

第３条　委員会は次の各号に掲げる委員をもって組織する。

（１）学部長

（２）学生部長

（３）部門長

（４）大学長が指名する教員若干名

２　委員の他に必要に応じて、委員以外の者の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

（任期）

第４条　前条第１項第１号から第３号の委員の任期は、その職にある期間とする。

２　前条第１項第４号の委員の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第５条　委員会に委員長を置き、学部長をもって充てる。

２　委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長の指名した者がその職務を代行する。

（委員会の開催）

第６条　委員会は、委員長が必要に応じて招集し、その議長となる。

（会議）

第７条　委員会は、委員の半数以上の出席により成立する。

２　議事は、出席委員の過半数により決し、可否同数のときは議長が決する。

（事務）

第８条　委員会に関する事務は、教務課において処理する。

附　則

この規則は、平成 29 年４月１日から施行する。